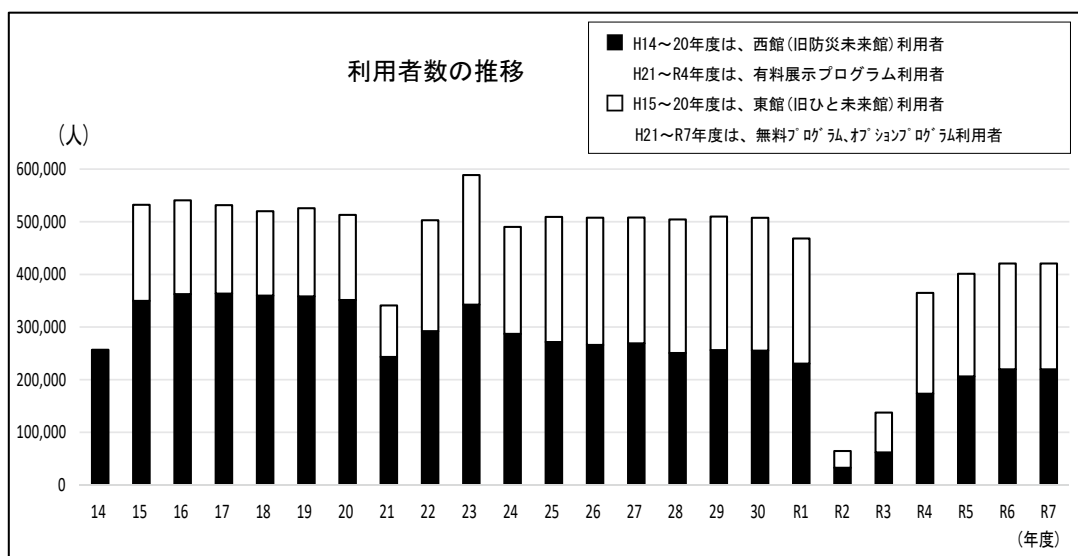


I 章 展示

- 1 利用者の動向
- 2 常設展示の概要
- 3 企画展の概要
- 4 運営ボランティアの活動等
- 5 VIP 等の視察対応

1 節 利用者の動向

1 利用者数



〔平成 14 ～ 20 年度〕

区 分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	小計(H14-20)
利用者数(人)	256,789	532,173	540,622	531,485	520,016	525,624	513,092	3,419,801
西館(旧防災未来館)	256,789	349,584	362,409	363,516	359,571	358,163	351,263	2,401,295
東館(旧ひと未来館)	—	182,589	178,213	167,969	160,445	167,461	161,829	1,018,506
1 日平均利用者数(人)	870	1,700	1,733	1,703	1,646	1,679	1,639	1,573
西館(旧防災未来館)	870	1,117	1,162	1,165	1,138	1,144	1,122	1,105
東館(旧ひと未来館)	—	583	571	538	508	535	517	468
営業日数(日)	295	313	312	312	316	313	313	2,174

〔平成 21 ～ 令和 6 年度〕

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数(人)	341,010	502,865	588,731	490,131	509,206	507,714	507,986	504,410	509,820
有料展示プログラム	243,134	292,092	342,507	286,915	271,426	265,999	269,057	250,712	256,239
無料・オプションプログラム	97,876	210,773	246,224	203,216	237,780	241,715	238,929	253,698	253,581
1 日平均利用者数(人)	1,111	1,612	1,881	1,566	1,637	1,627	1,628	1,622	1,639
有料展示プログラム	792	936	1,094	917	873	853	862	806	824
無料・オプションプログラム	319	676	787	649	765	775	766	816	815
営業日数(日)	307	312	313	313	311	312	312	311	311

区 分	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者数(人)	507,595	468,282	64,517	137,618	364,783	401,265	420,810	435,641
有料展示プログラム	255,202	230,452	32,578	61,891	173,310	206,258	219,697	217,265
無料・オプションプログラム	252,393	237,830	31,939	75,727	191,473	195,007	201,113	218,376
1 日平均利用者数(人)	1,627	1,626	251	471	1,200	1,329	1,380	1,414
有料展示プログラム	818	800	127	212	570	683	720	705
無料・オプションプログラム	809	826	124	259	630	646	659	709
営業日数(日)	312	288	257	292	304	302	305	308

区 分	小計(H21-R7)	累計(H14-R7)
利用者数(人)	7,262,384	10,682,185
有料展示プログラム	3,874,734	—
無料・オプションプログラム	3,387,650	—
1日平均利用者数(人)	1,405	平均 1,455
有料展示プログラム	—	—
無料・オプションプログラム	—	—
営業日数(日)	5,170	7,344

「利用者数」

※平成14年度の利用者数は防災未来館のみの利用者数。

平成14年4月27日 西館(旧防災未来館)オープン

平成15年4月26日 東館(旧ひと未来館)オープン(グランドオープン)

※平成15～20年度の利用者数は、西館(旧防災未来館)、東館(旧ひと未来館)それぞれの利用者数の合計数。

※平成21年度以降の利用者数は、有料展示プログラム利用者数に加え、資料室利用や各種の研修・ワークショップ・セミナー・イベント参加等の無料プログラムの利用者数及びこころのシアター利用等のオプションプログラムの利用者数の合計数。

(料金体系の変更、無料プログラムの増大等に伴い、利用者数算定の方法を、館区分別から有料・無料等プログラム区分別に変更。)

- ・平成21年度の利用者数が大幅に少ないのは、新型インフルエンザの兵庫県内発生による予約キャンセルや、その後の全国的なまん延による出控え、旅行自粛等の影響と考えられる。
- ・平成23年度の利用者数が増加しているのは、東日本大震災（H23.3.11）を機に、防災に対する関心が高まったこと、特に中部圏の学校等の団体が、震災等の影響で旅行先を関東から関西方面に変更したこと等によるものと考えられる。
- ・令和元年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で1月から団体予約のキャンセルが発生し、3月3日午後から臨時休館を行った。(臨時休館は翌年度5月末まで継続)
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大や4月～5月、令和3年1月～2月の二度の緊急事態宣言の発出等を受けて臨時休館やシアターでの入場制限を実施せざるを得ず、また、国内外での移動・旅行自粛や規制等が長く続き、団体予約のキャンセルも相次ぐなど来館者が激減した。
- ・令和3年度は前年度比較で大きく増加しているが、緊急事態宣言の発出により4月25日～5月11日、停電工事に伴い令和4年2月12日～13日、19日～20日に臨時閉館したことが影響し、過去と比べ引き続き低調な利用者数となっている。
- ・令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、コロナ前の水準には達しないものの、令和5年度以降、来館者数は徐々に回復傾向にある。
- ・令和6年度は、停電工事にあわせて、閑散期である2月に臨時閉館を3日間（2月22,23,24日）行ったものの、特に8月の南海トラフ地震臨時情報の発表や震災30年の節目であることで防災・減災への関心が高まり、来館者数は増加している。

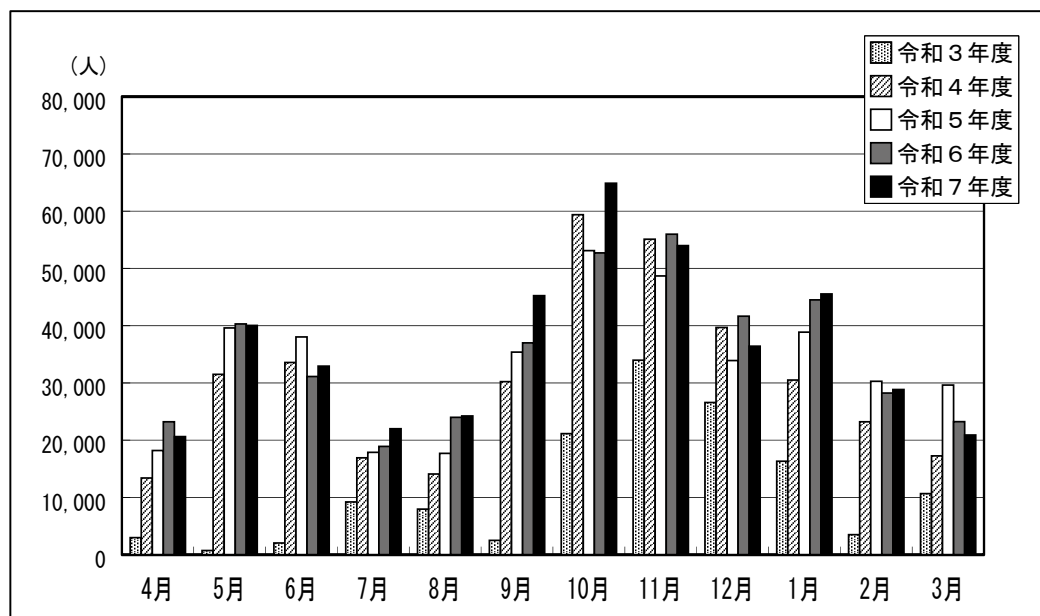
[令和7年度]

- ・利用者数（無料のイベント参加等を含む）は、435,641人（うち有料展示プログラム217,265人）で、前年同期に比べ103.5%（有料展示プログラムについて98.9%）となっている。
- ・経費節減の観点から、来館者の少ない夜間や年末年始開館の休止を引き続き実施してい

る。(令和5年1月20日(金)から金・土曜日の夜間開館(19:00閉館)を通常閉館時間(17:30)に、令和5年度から7月～9月に実施していた夜間開館(18:00閉館)を通常閉館時間(17:30)に、年末年始の休館日(12/31、1/1)を12/29～1/3に拡大して休館)

2 利用者の月別状況

(1) 利用者全体

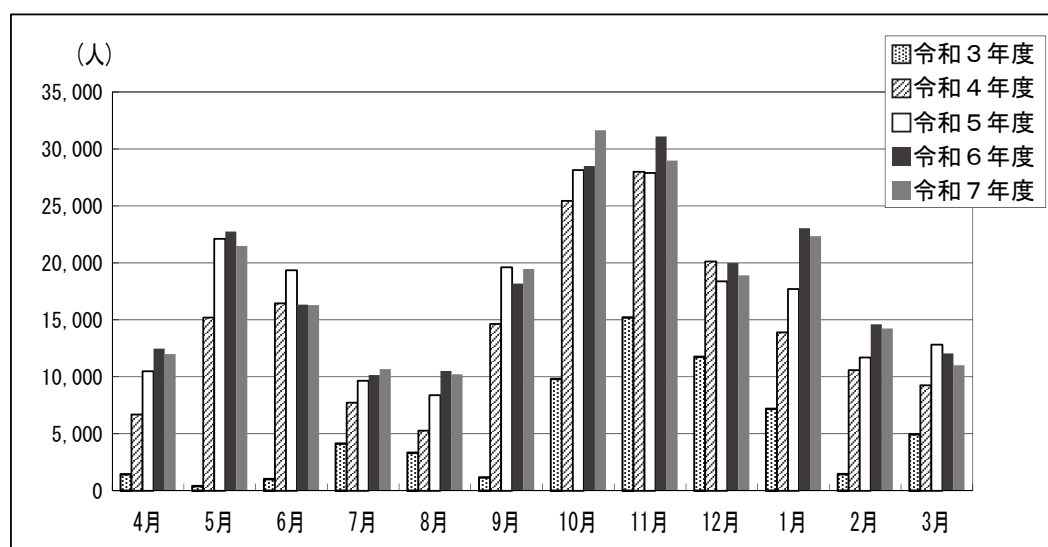


(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成14年度	4,512	27,626	25,056	19,762	18,435	23,141	37,616	36,244	13,238	16,952	18,380	15,827	256,789
平成15年度	19,690	56,046	49,018	42,526	39,324	40,887	75,822	70,871	28,463	33,412	37,907	38,207	532,173
平成16年度	30,251	60,068	43,598	34,698	38,540	36,154	67,234	67,857	32,749	45,242	42,610	41,621	540,622
平成17年度	32,301	58,348	46,947	35,495	34,731	45,972	71,306	72,367	29,237	32,430	37,505	34,846	531,485
平成18年度	31,175	57,664	42,676	32,524	35,361	43,656	72,918	75,236	28,027	34,605	34,715	31,459	520,016
平成19年度	28,983	62,099	43,890	27,626	35,943	42,644	75,466	76,403	30,189	39,949	35,461	26,971	525,624
平成20年度	27,656	60,722	45,097	29,446	33,088	39,862	79,334	70,953	29,024	38,846	33,548	25,516	513,092
平成21年度	22,627	20,918	11,928	21,257	19,932	31,053	49,590	39,338	29,685	41,611	31,100	21,971	341,010
平成22年度	28,198	53,336	45,600	31,448	35,405	40,120	62,536	59,809	41,134	37,676	39,310	28,293	502,865
平成23年度	24,893	68,035	78,503	41,048	39,611	53,558	70,397	71,320	39,811	34,856	34,648	32,051	588,731
平成24年度	25,824	57,044	41,098	27,001	32,405	42,609	58,966	57,252	40,052	40,027	37,113	30,740	490,131
平成25年度	23,844	59,377	36,902	25,139	33,822	40,318	59,530	73,484	44,648	49,463	36,867	25,812	509,206
平成26年度	25,286	59,934	34,757	25,387	33,243	42,283	61,806	53,104	35,871	59,590	42,335	34,118	507,714
平成27年度	25,091	53,612	43,749	30,381	34,693	40,482	63,905	57,882	43,190	53,164	37,222	24,615	507,986
平成28年度	25,577	47,552	38,481	30,454	37,918	40,699	61,686	62,086	39,633	49,861	41,748	28,715	504,410
平成29年度	24,721	49,303	40,998	25,805	40,410	43,940	59,519	61,307	47,713	47,497	39,569	29,038	509,820
平成30年度	24,505	48,244	41,827	25,669	40,713	41,720	65,069	64,750	40,680	48,018	37,259	29,141	507,595

令和元年度	25,286	48,141	41,260	27,033	35,959	40,924	63,232	65,246	46,271	50,287	24,332	311	468,282
令和2年度	0	0	1,371	2,769	3,439	5,017	10,873	13,274	8,352	10,397	3,010	6,015	64,517
令和3年度	2,988	736	2,050	9,207	7,964	2,505	21,139	33,958	26,579	16,318	3,496	10,678	137,618
令和4年度	13,396	31,481	33,555	16,928	14,087	30,226	59,389	55,093	39,686	30,486	23,208	17,248	364,783
令和5年度	18,191	39,620	38,032	17,884	17,698	35,371	53,103	48,691	33,904	38,876	30,270	29,625	401,265
令和6年度	23,208	40,313	31,103	18,902	23,991	36,991	52,710	55,972	41,666	44,507	28,217	23,230	420,810
令和7年度	20,616	40,049	32,932	21,993	24,229	45,242	64,877	53,992	36,406	45,549	28,853	20,903	435,641
合計	528,819	1,100,268	890,428	620,382	710,941	885,374	1,418,023	1,396,489	826,208	939,619	758,683	606,951	10,682,185

(2) 有料展示プログラム利用者のみ



(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度	1,442	405	1,025	4,135	3,335	1,167	9,818	15,207	11,753	7,190	1,458	4,956	61,891
令和4年度	6,693	15,196	16,458	7,735	5,277	14,641	25,439	27,998	20,128	13,902	10,583	9,260	173,310
令和5年度	10,485	22,114	19,354	9,654	8,388	19,616	28,143	27,891	18,383	17,713	11,694	12,823	206,258
令和6年度	12,472	22,750	16,339	10,154	10,516	18,185	28,498	31,098	19,986	23,043	14,606	12,050	219,697
令和7年度	11,994	21,487	16,297	10,672	10,223	19,472	31,642	28,975	18,906	22,346	14,239	11,012	217,265

- ・令和3年度及び4年度前半は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用者が大幅に減少している。
- ・令和7年度は、大阪・関西万博の効果を期待したものの、前年度と比較してやや低調であった。

3 観覧者（有料展示プログラム利用者）の区分別状況

「観覧者」

※利用者のうち有料展示プログラム利用者を指す。（発券記録等を基にして「団体」・「個人」の2区分ごと、また「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」の3区分ごとに集計。）

(上段：人数)

(下段：構成比率)

区 分	団体											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	－	200,525 37.7%	192,071 35.5%	183,423 34.5%	160,634 30.9%	134,627 25.6%	94,263 18.4%	45,846 18.9%	63,106 21.6%	61,080 17.8%	78,645 27.4%	70,932 26.1%
高校・ 大学生	－	29,178 5.5%	31,365 5.8%	38,365 7.2%	37,287 7.2%	42,206 8.0%	37,584 7.3%	24,668 10.1%	18,514 6.3%	30,343 8.9%	24,993 8.7%	25,173 9.3%
小・中学生 等	－	87,054 16.4%	110,397 20.4%	113,779 21.4%	118,431 22.8%	105,972 20.2%	115,542 22.5%	57,633 23.7%	66,895 22.9%	149,687 43.7%	100,246 34.9%	95,308 35.1%
計	147,515 57.4%	316,757 59.5%	333,833 61.7%	335,567 63.1%	316,352 60.8%	282,805 53.8%	247,389 48.2%	128,147 52.7%	148,515 50.8%	241,110 70.4%	203,884 71.1%	191,413 70.5%

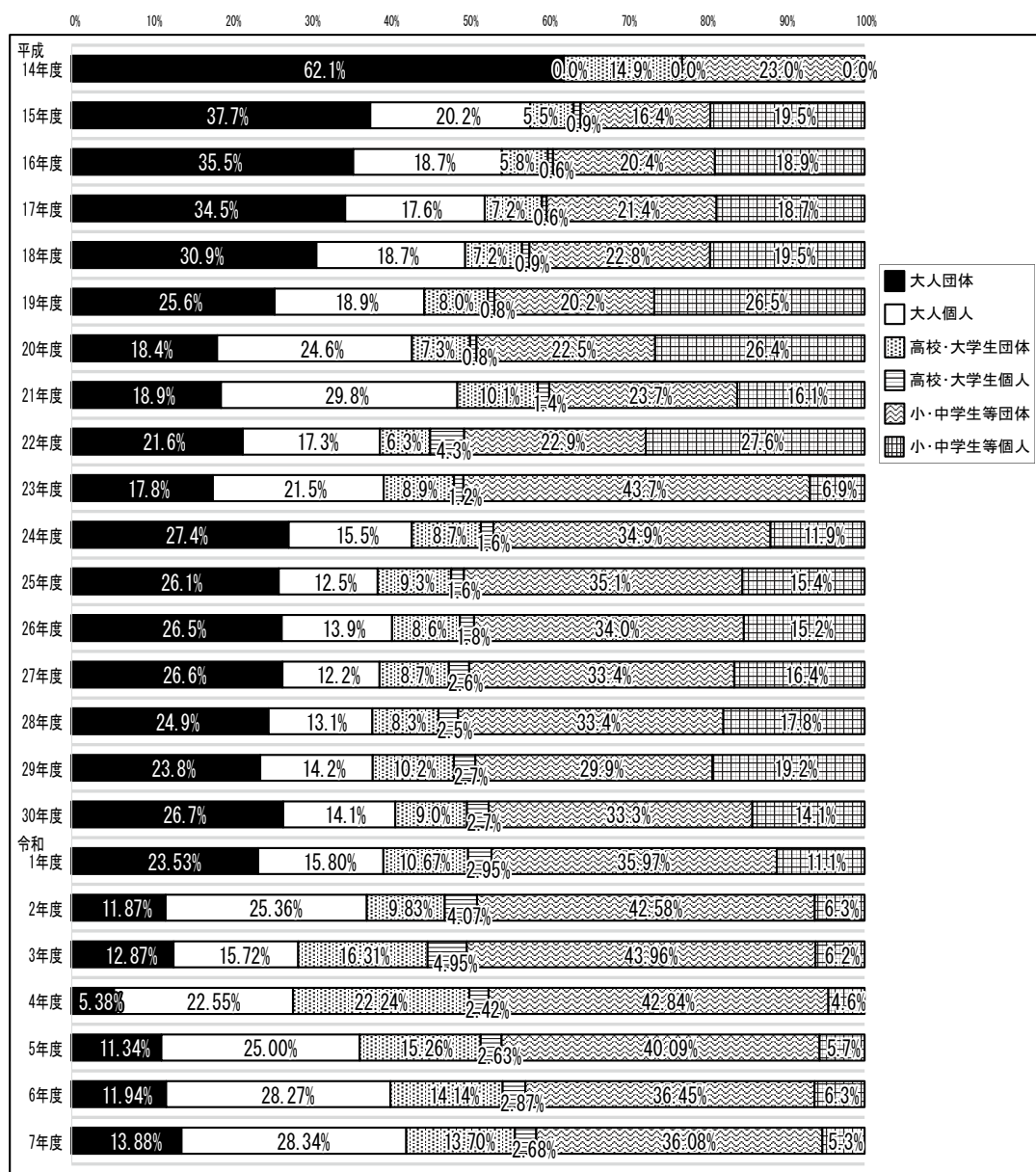
区 分	団体											
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	R6年度	R7年度
大 人	70,514 26.5%	71,566 26.6%	62,321 24.9%	60,980 23.8%	68,125 26.7%	54,233 23.5%	3,867 11.9%	7,966 12.9%	9,320 5.4%	23,386 11.3%	26,241 11.9%	30,147 13.9%
高校・ 大学生	22,749 8.6%	23,526 8.7%	20,896 8.3%	26,227 10.2%	23,070 9.0%	24,598 10.7%	3,204 9.8%	10,093 16.3%	38,552 22.2%	31,471 15.3%	31,073 14.1%	29,761 13.7%
小・中学生 等	90,464 34.0%	89,890 33.4%	83,362 33.3%	76,593 29.9%	84,862 33.3%	82,905 36.0%	13,871 42.6%	27,208 44.0%	74,252 42.8%	82,692 40.1%	80,087 36.5%	78,386 36.1%
計	183,727 69.1%	184,982 68.8%	166,579 66.4%	163,800 63.9%	176,057 69.0%	161,736 70.2%	20,942 64.3%	45,267 73.1%	122,124 70.5%	137,549 66.7%	137,401 62.5%	138,294 63.7%

区 分	個人											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	－	107,283 20.2%	101,311 18.7%	93,517 17.6%	97,494 18.7%	99,162 18.9%	126,037 24.6%	72,437 29.8%	50,493 17.3%	73,769 21.5%	44,495 15.5%	33,850 12.5%
高校・ 大学生	－	4,589 0.9%	3,467 0.6%	3,161 0.6%	4,855 0.9%	4,307 0.8%	4,175 0.8%	3,514 1.4%	12,511 4.3%	4,054 1.2%	4,510 1.6%	4,361 1.6%
小・中学生 等	－	103,544 19.5%	102,011 18.9%	99,240 18.7%	101,315 19.5%	139,350 26.5%	135,491 26.4%	39,036 16.1%	80,573 27.6%	23,574 6.9%	34,026 11.9%	41,802 15.4%
計	109,274 42.6%	215,416 40.5%	206,789 38.3%	195,918 36.9%	203,664 39.2%	242,819 46.2%	265,703 51.8%	114,987 47.3%	143,577 49.2%	101,397 29.6%	83,031 28.9%	80,013 29.5%

区 分	個人											
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	R6年度	R7年度
大 人	37,006 13.9%	32,948 12.2%	32,791 13.1%	36,343 14.2%	36,075 14.1%	36,403 15.8%	8,260 25.4%	9,726 15.7%	39,085 22.6%	51,566 25.0%	62,119 28.3%	61,577 28.3%
高校・ 大学生	4,769 1.8%	6,897 2.6%	6,195 2.5%	6,948 2.7%	6,961 2.7%	6,812 3.0%	1,328 4.1%	3,067 5.0%	4,189 2.4%	5,432 2.6%	6,304 2.9%	5,831 2.7%
小・中学生 等	40,497 15.2%	44,230 16.4%	45,147 18.0%	49,148 19.2%	36,109 14.1%	25,501 11.1%	2,048 6.3%	3,831 6.2%	7,912 4.6%	11,711 5.7%	13,873 6.3%	11,563 5.3%
計	82,272 30.9%	84,075 31.2%	84,133 33.6%	92,439 36.1%	79,145 31.0%	68,716 29.8%	11,636 35.7%	16,624 26.9%	51,186 29.5%	68,709 33.3%	82,296 37.5%	78,971 36.3%

区 分	合 計											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	— 57.8%	307,808 57.8%	293,382 54.3%	276,940 52.1%	258,128 49.6%	233,789 44.5%	220,300 42.9%	118,283 48.6%	113,599 38.9%	134,849 39.4%	123,140 42.9%	104,782 38.6%
高校・ 大学生	— 6.3%	33,767 6.3%	34,832 6.4%	41,526 7.8%	42,142 8.1%	46,513 8.8%	41,759 8.1%	28,182 11.6%	31,025 10.6%	34,397 10.0%	29,503 10.3%	29,534 10.9%
小・中学生 等	— 35.8%	190,598 35.8%	212,408 39.3%	213,019 40.1%	219,746 42.3%	245,322 46.7%	251,033 48.9%	96,669 39.8%	147,468 50.5%	173,261 50.6%	134,272 46.8%	137,110 50.5%
計	256,789 100.0%	532,173 100.0%	540,622 100.0%	531,485 100.0%	520,016 100.0%	525,624 100.0%	513,092 100.0%	243,134 100.0%	292,092 100.0%	342,507 100.0%	286,915 100.0%	271,426 100.0%

区 分	合 計											
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	R 6 年度	R 7 年度
大 人	107,520 40.4%	104,514 38.8%	95,112 37.9%	97,323 38.0%	104,200 40.8%	90,636 39.3%	12,127 37.2%	17,692 28.6%	48,405 27.9%	74,952 36.3%	88,360 40.2%	91,724 42.2%
高校・ 大学生	27,518 10.4%	30,423 11.3%	27,091 10.8%	33,175 12.9%	30,031 11.8%	31,410 13.6%	4,532 13.9%	13,160 21.3%	42,741 24.7%	36,903 17.9%	37,377 17.0%	35,592 16.4%
小・中学生 等	130,961 49.2%	134,120 49.8%	128,509 51.3%	125,741 49.1%	120,971 47.4%	108,406 47.0%	15,919 48.9%	31,039 50.2%	82,164 47.4%	94,403 45.8%	93,960 42.8%	89,949 41.4%
計	265,999 100.0%	269,057 100.0%	250,712 100.0%	256,239 100.0%	255,202 100.0%	230,452 100.0%	32,578 100.0%	61,891 100.0%	173,310 100.0%	206,258 100.0%	219,697 100.0%	217,265 100.0%



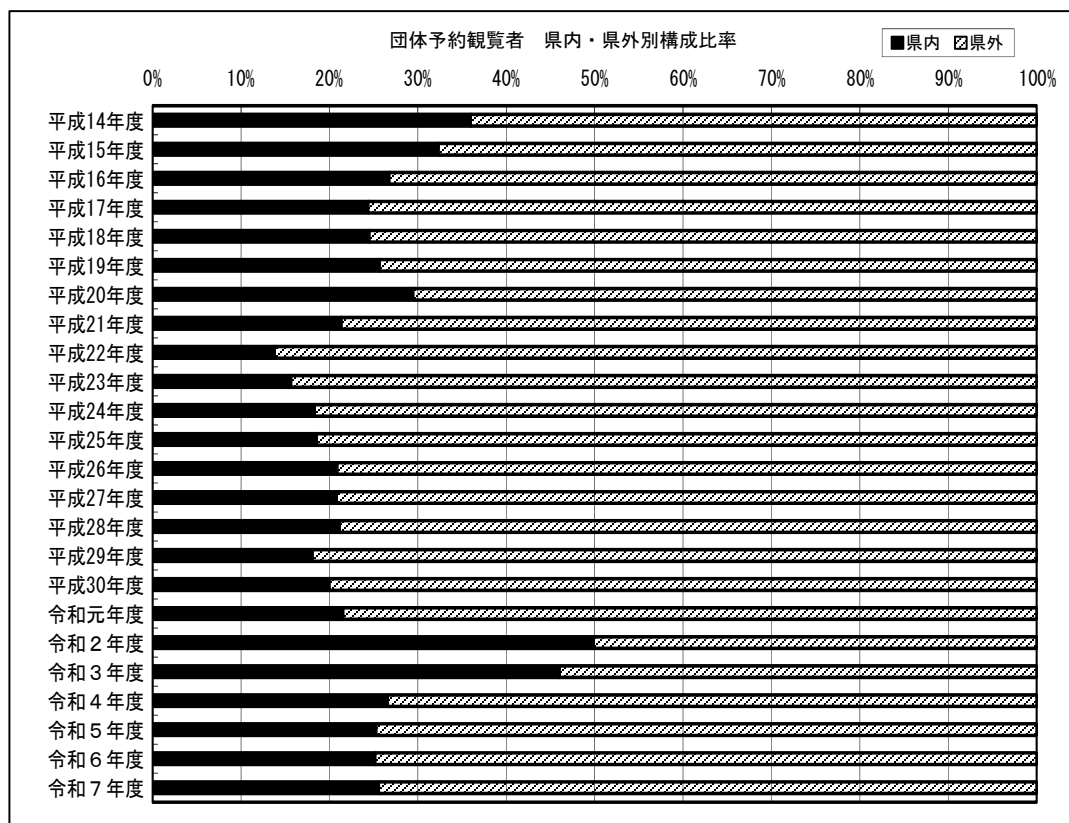
・令和7年度は、「団体」、「個人」別では、「団体」が63.7%となっている。

4 団体予約観覧者（有料展示プログラム利用者）の状況

「団体予約観覧者」

※観覧者のうち団体予約による者を指す。（観覧予約申込書を基にして地域ごと、団体種類ごとに集計。）

(1) 県内・県外別

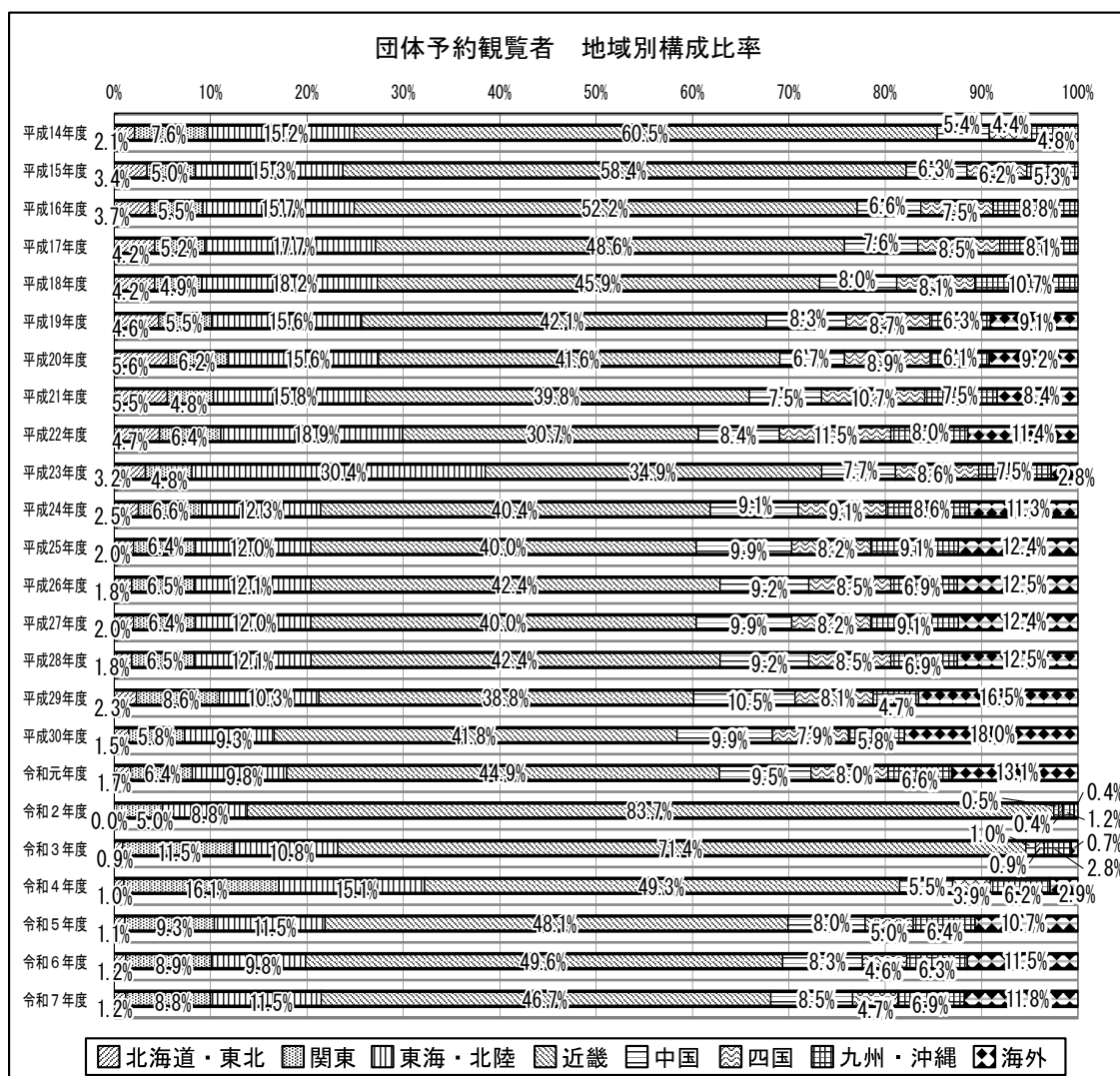
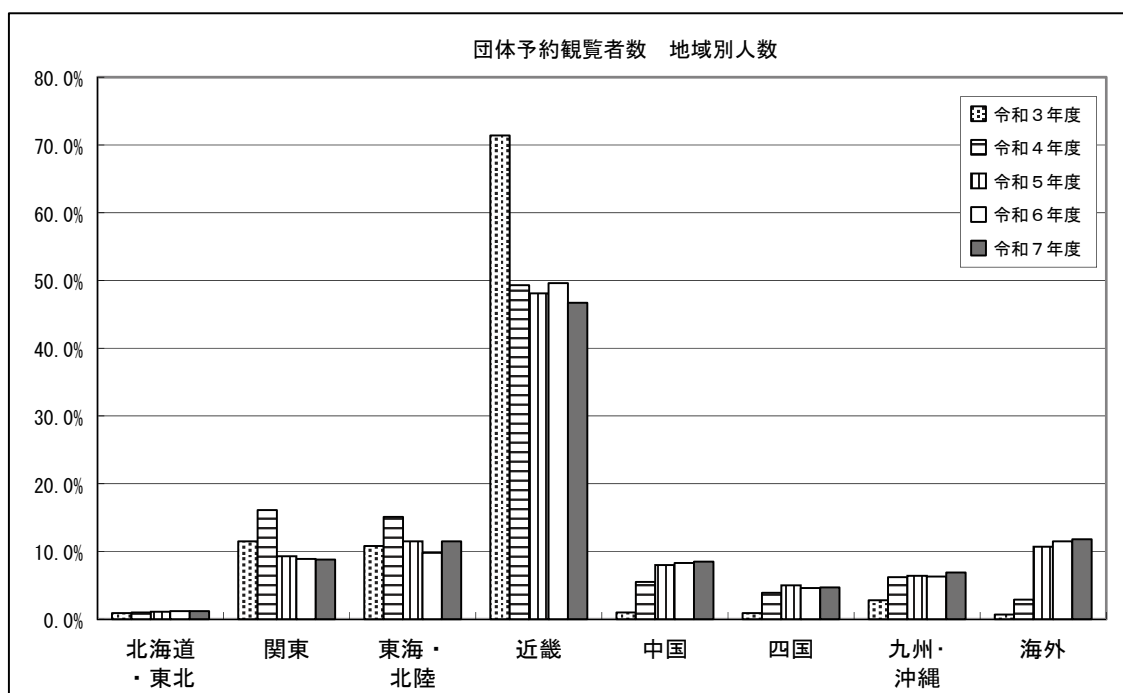


・令和7年度は、団体予約の「県内」、「県外」別では、「県外」が74.4%となっている。

(単位：人)

区 分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県内	53,110	102,424	89,331	81,839	77,537	72,640	72,906	27,367	20,530	37,757	37,429	35,583
構成比	36.0%	32.3%	26.8%	24.4%	24.5%	25.7%	29.5%	21.4%	13.8%	15.7%	18.4%	18.6%
県外	94,405	214,333	244,502	253,728	238,815	210,165	174,483	100,780	127,985	203,353	166,455	155,830
構成比	64.0%	67.7%	73.2%	75.6%	75.5%	74.3%	70.5%	78.6%	86.2%	84.3%	81.6%	81.4%
合計	147,515	316,757	333,833	335,567	316,352	282,805	247,389	128,147	148,515	241,110	203,884	191,413
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
県内	38,371	38,560	35,221	29,618	35,204	34,866	10,450	20,840	36,729	40,319	40,149	41,065
構成比	20.9%	20.8%	21.1%	18.1%	20.0%	21.6%	49.9%	46.0%	26.6%	25.3%	25.2%	25.6%
県外	145,356	146,422	131,358	134,182	140,853	126,870	10,492	24,427	101,229	119,140	119,316	119,302
構成比	79.1%	79.2%	78.9%	81.9%	80.0%	78.4%	50.1%	54.0%	73.4%	74.7%	74.8%	74.4%
合計	183,727	184,982	166,579	163,800	176,057	161,736	20,942	45,267	137,958	159,459	159,465	160,367
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 地域（ブロック）別



(上段：人数)
(下段：構成比率)

区 分	北海道・東北	関東	東海・北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	計
平成14年度	3,139 2.1%	11,153 7.6%	22,462 15.2%	89,275 60.5%	7,970 5.4%	6,477 4.4%	7,039 4.8%	—	147,515 100.0%
平成15年度	10,917 3.4%	15,740 5.0%	48,530 15.3%	184,974 58.4%	20,017 6.3%	19,741 6.2%	16,838 5.3%	—	316,757 100.0%
平成16年度	12,185 3.7%	18,322 5.5%	52,312 15.7%	174,333 52.2%	22,175 6.6%	25,196 7.5%	29,310 8.8%	—	333,833 100.0%
平成17年度	13,949 4.2%	17,551 5.2%	59,368 17.7%	163,183 48.6%	25,597 7.6%	28,617 8.5%	27,302 8.1%	—	335,567 100.0%
平成18年度	13,350 4.2%	15,406 4.9%	57,608 18.2%	145,237 45.9%	25,403 8.0%	25,625 8.1%	33,723 10.7%	—	316,352 100.0%
平成19年度	12,895 4.6%	15,568 5.5%	44,059 15.6%	118,946 42.1%	23,422 8.3%	24,536 8.7%	17,768 6.3%	25,611 9.1%	282,805 100.0%
平成20年度	13,906 5.6%	15,332 6.2%	38,636 15.6%	102,705 41.5%	16,464 6.7%	21,982 8.9%	15,042 6.1%	22,823 9.2%	247,389 100.0%
平成21年度	7,030 5.5%	6,097 4.8%	20,185 15.8%	51,184 39.9%	9,576 7.5%	13,774 10.7%	9,581 7.5%	10,720 8.4%	128,147 100.0%
平成22年度	6,951 4.7%	9,475 6.4%	28,019 18.9%	45,590 30.7%	12,493 8.4%	17,150 11.5%	11,854 8.0%	16,983 11.4%	148,515 100.0%
平成23年度	7,780 3.2%	11,661 4.8%	73,382 30.4%	84,186 34.9%	18,452 7.7%	20,838 8.6%	18,068 7.5%	6,743 2.8%	241,110 100.0%
平成24年度	6,288 3.1%	12,784 6.3%	32,363 15.9%	79,159 38.8%	20,144 9.9%	20,850 10.2%	18,965 9.3%	13,331 6.5%	203,884 100.0%
平成25年度	5,108 2.7%	11,669 6.1%	24,234 12.7%	76,636 40.0%	18,793 9.8%	19,418 10.1%	17,562 9.2%	17,993 9.4%	191,413 100.0%
平成26年度	4,654 2.5%	12,211 6.6%	22,624 12.4%	74,317 40.4%	16,803 9.1%	16,657 9.1%	15,725 8.6%	20,736 11.3%	183,727 100.0%
平成27年度	3,710 2.0%	11,865 6.4%	22,241 12.0%	73,978 40.0%	18,270 9.9%	15,163 8.2%	16,742 9.1%	23,013 12.4%	184,982 100.0%
平成28年度	3,052 1.8%	10,883 6.5%	20,171 12.1%	70,695 42.4%	15,322 9.2%	14,141 8.5%	11,506 6.9%	20,809 12.5%	166,579 100.0%
平成29年度	3,771 2.3%	14,086 8.6%	16,953 10.3%	63,634 38.8%	17,201 10.5%	13,300 8.1%	7,751 4.7%	27,104 16.5%	163,800 100.0%
平成30年度	2,596 1.5%	10,170 5.8%	16,455 9.3%	73,515 41.8%	17,432 9.9%	13,986 7.9%	10,206 5.8%	31,697 18.0%	176,057 100.0%
令和元年度	2,679 1.7%	10,422 6.4%	15,929 9.8%	72,570 44.9%	15,363 9.5%	12,889 8.0%	10,744 6.6%	21,140 13.1%	161,736 100.0%
令和2年度	5 0.0%	1,044 5.0%	1,840 8.8%	17,538 83.7%	105 0.5%	90 0.4%	244 1.2%	76 0.4%	20,942 100.0%
令和3年度	422 0.9%	5,222 11.5%	4,877 10.8%	32,314 71.4%	474 1.0%	414 0.9%	1,245 2.8%	299 0.7%	45,267 100.0%
令和4年度	1,347 1.0%	22,180 16.1%	20,806 15.1%	68,061 49.3%	7,531 5.5%	5,447 3.9%	8,612 6.2%	3,974 2.9%	137,958 100.0%
令和5年度	1,769 1.1%	14,784 9.3%	18,276 11.5%	76,674 48.1%	12,769 8.0%	7,999 5.0%	10,174 6.4%	17,014 10.7%	159,459 100.0%
令和6年度	1,598 1.0%	14,127 8.9%	15,678 9.8%	79,131 49.6%	13,272 8.3%	7,371 4.6%	10,002 6.3%	18,286 11.5%	159,465 100.0%
令和7年度	1,927 1.2%	14,189 8.8%	18,401 11.5%	74,922 46.7%	13,563 8.5%	7,464 4.7%	11,018 6.9%	18,883 11.8%	160,367 100.0%

・令和7年度は、「近畿」が74,922人、構成比46.7%で最も多い。

(3) 都道府県別

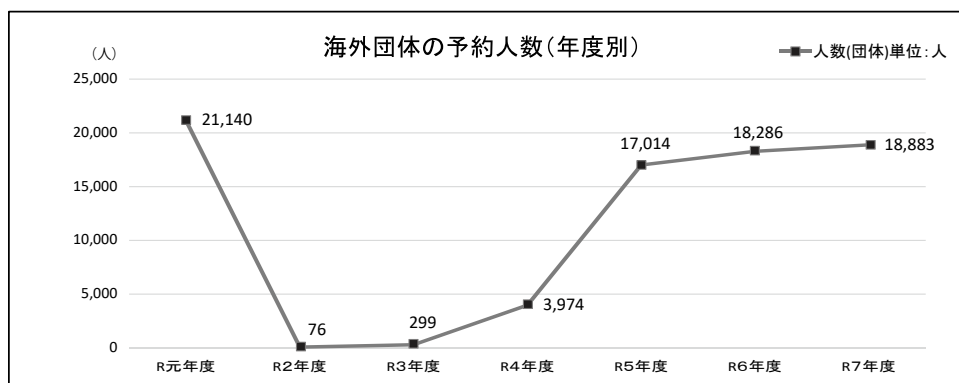
(単位：人)

ランキング	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平成14年度	兵庫県 53,110	大阪府 19,918	愛知県 7,367	京都府 4,859	滋賀県 4,856	和歌山県 3,753	岐阜県 3,718	岡山県 3,363	三重県 3,345	東京都 3,066
平成15年度	兵庫県 102,424	大阪府 37,164	愛知県 16,458	和歌山県 12,988	滋賀県 12,922	京都府 10,303	三重県 9,259	奈良県 9,173	岡山県 7,820	高知県 7,818
平成16年度	兵庫県 89,331	大阪府 38,219	愛知県 17,441	和歌山県 14,600	京都府 11,871	滋賀県 10,548	岡山県 9,836	奈良県 9,764	高知県 8,920	三重県 8,110
平成17年度	兵庫県 81,839	大阪府 38,223	愛知県 22,818	和歌山県 14,190	京都府 11,388	岡山県 10,144	奈良県 8,922	高知県 8,748	三重県 8,634	滋賀県 8,621
平成18年度	兵庫県 77,537	大阪府 28,549	愛知県 21,334	和歌山県 10,850	京都府 10,817	岡山県 9,837	三重県 9,557	滋賀県 8,757	岐阜県 7,504	高知県 7,370
平成19年度	兵庫県 72,640	海外 25,611	大阪府 21,861	愛知県 15,526	京都府 9,106	岡山県 8,739	和歌山県 8,512	愛媛県 7,579	三重県 6,844	熊本県 6,646
平成20年度	兵庫県 72,906	海外 22,823	大阪府 22,600	愛知県 14,849	和歌山県 7,718	岡山県 7,229	京都府 6,996	香川県 6,553	愛媛県 6,352	岐阜県 5,556
平成21年度	兵庫県 27,367	大阪府 11,011	海外 10,720	愛知県 7,324	香川県 4,331	和歌山県 3,813	愛媛県 3,807	京都府 3,664	三重県 3,609	岡山県 3,479
平成22年度	兵庫県 20,530	海外 16,983	大阪府 10,829	愛知県 9,712	香川県 5,816	三重県 4,821	和歌山県 4,477	高知県 4,357	京都府 4,323	福岡県 4,181
平成23年度	兵庫県 40,934	愛知県 38,063	大阪府 26,186	三重県 14,815	岐阜県 9,988	岡山県 7,829	香川県 7,558	京都府 6,952	海外 6,743	和歌山県 6,137
平成24年度	兵庫県 37,429	大阪府 21,164	海外 13,331	愛知県 9,832	岡山県 7,774	三重県 6,842	京都府 6,642	熊本県 6,392	福岡県 6,146	高知県 5,924
平成25年度	兵庫県 35,583	大阪府 22,376	海外 17,993	岡山県 7,932	愛知県 6,562	京都府 6,265	高知県 6,184	熊本県 5,774	香川県 5,714	福岡県 5,445
平成26年度	兵庫県 38,371	海外 20,736	大阪府 19,195	岡山県 7,282	愛知県 7,083	高知県 6,186	和歌山県 5,199	京都府 4,785	熊本県 4,638	広島県 4,431
平成27年度	兵庫県 38,560	海外 23,013	大阪府 19,545	愛知県 8,948	岡山県 8,443	京都府 7,430	高知県 5,597	熊本県 5,188	広島県 5,170	和歌山県 4,947
平成28年度	兵庫県 35,221	海外 20,809	大阪府 20,097	愛知県 6,428	岡山県 6,263	京都府 5,682	広島県 4,872	高知県 4,837	福岡県 3,983	和歌山県 3,872
平成29年度	兵庫県 29,618	海外 27,104	大阪府 20,053	岡山県 6,852	京都府 5,594	東京都 5,289	広島県 5,195	愛知県 5,140	高知県 4,763	和歌山県 3,371
平成30年度	兵庫県 35,204	海外 31,697	大阪府 22,193	岡山県 6,840	京都府 5,872	愛知県 5,715	広島県 5,669	高知県 4,897	福岡県 4,864	和歌山県 4,580
令和元年度	兵庫県 34,866	大阪府 22,469	海外 21,140	京都府 6,600	愛知県 6,052	広島県 5,721	福岡県 5,252	岡山県 4,906	高知県 4,711	東京都 3,971
令和2年度	兵庫県 10,450	大阪府 5,222	愛知県 1,567	京都府 736	奈良県 718	滋賀県 381	埼玉県 358	千葉県 264	熊本県 191	神奈川県 188
令和3年度	兵庫県 20,840	大阪府 9,134	愛知県 2,478	千葉県 2,034	東京都 1,484	京都府 1,455	岐阜県 1,116	静岡県 825	福岡県 769	埼玉県 720
令和4年度	兵庫県 36,729	大阪府 19,606	岐阜県 7,526	千葉県 7,401	愛知県 6,695	福岡県 5,618	東京都 5,543	京都府 5,111	岡山県 4,585	埼玉県 4,114
令和5年度	兵庫県 40,319	大阪府 20,085	海外 17,014	岡山県 6,053	京都府 5,983	愛知県 5,625	東京都 4,849	福岡県 4,782	奈良県 4,592	千葉県 3,827
令和6年度	兵庫県 40,149	大阪府 23,391	海外 18,286	東京都 6,845	京都府 6,352	岡山県 5,853	福岡県 5,523	愛知県 4,917	和歌山県 3,565	広島県 3,419

ランキング	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
令和7年度	兵庫県 41,065	海外 18,883	大阪府 18,661	京都府 6,975	愛知県 6,619	岡山県 6,000	福岡県 5,767	東京都 4,702	広島県 4,628	三重県 3,128

・令和7年度は、「兵庫県」が41,065人で第1位、「海外」が18,883人で第2位となっている。

(4) 海外（団体予約人数の推移）



・海外団体の予約人数の国別順位（1位～3位）

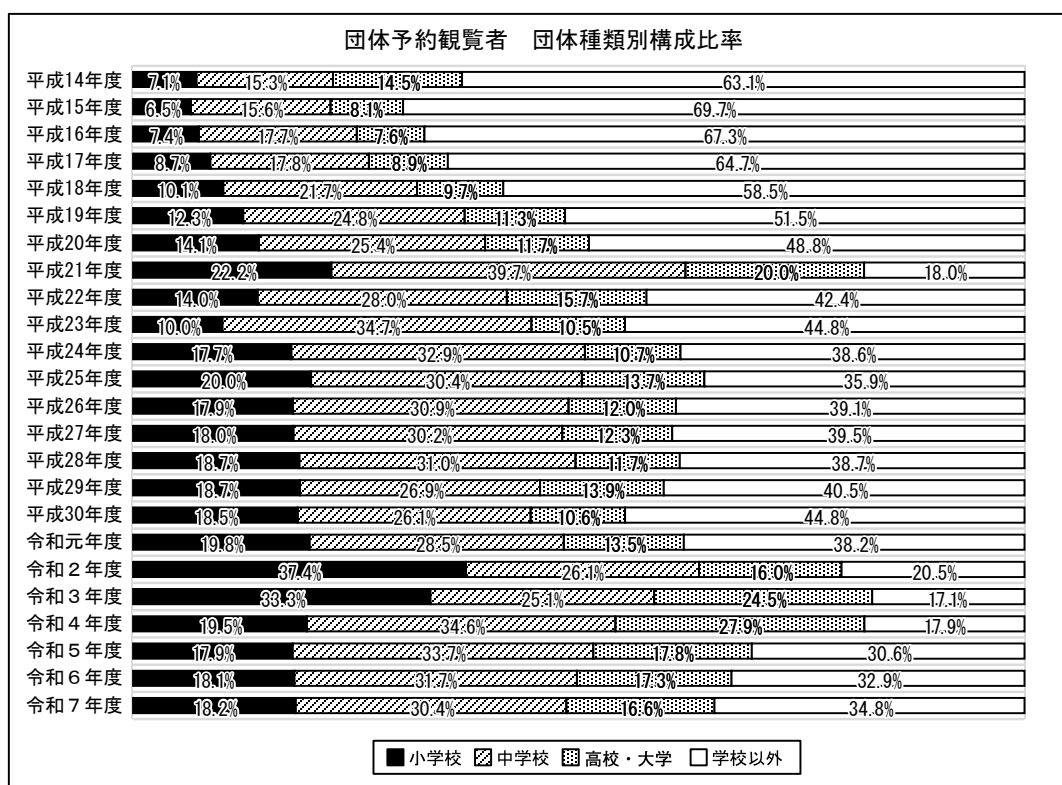
国別順位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1位	韓国 7,887	ベトナム 8,336	ベトナム 3,847	ベトナム 14	中国 39	ベトナム 874	韓国 4,665
2位	ベトナム 7,042	韓国 7,034	韓国 3,632	インド 6	ベトナム 15	韓国 746	インド 2,779
3位	マレーシア 2,904	中国 3,199	中国 3,344	－	－	マレーシア 336	ベトナム 1,337
－	その他 9,271	その他 13,128	その他 10,317	その他 56	その他 245	その他 2,018	その他 8,233
合計	27,104	31,697	21,140	76	299	3,974	17,014

国別順位	令和6年度	令和7年度
1位	韓国 5,480	韓国 4,292
2位	インド 2,661	インド 3,048
3位	中国 1,091	タイ 1,234
－	その他 9,054	その他 10,309
合計	18,286	18,883

※団体のみ。合計は4位以下の国を含む（単位：人）

・コロナ禍が過ぎ、海外からの個人や小グループでの来館が徐々に増加しているが、団体予約の数字には反映されていない。

(5) 団体種類別

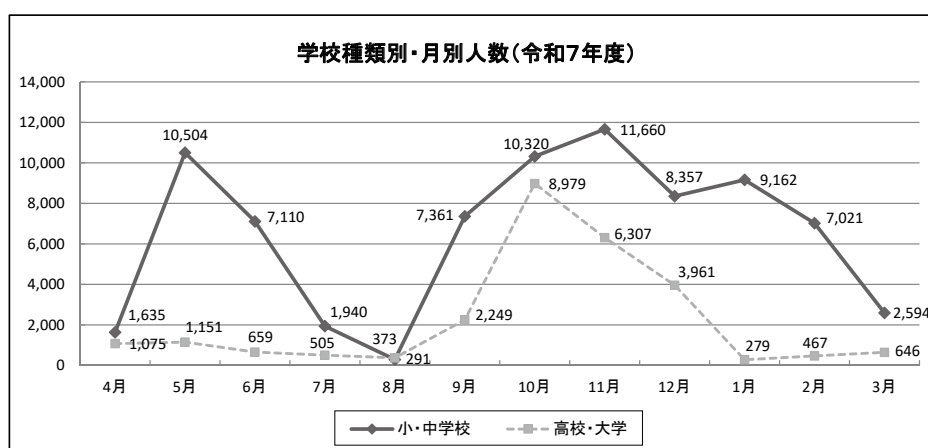


(上段：人数)

(下段：構成比率)

区 分	学 校				学校以外	合計
		小学校	中学校	高校・大学		
平成14年度	53,578 36.3%	10,312 7.0%	22,243 15.1%	21,023 14.3%	93,937 63.7%	147,515 100.0%
平成15年度	95,941 30.3%	20,597 6.5%	49,552 15.6%	25,792 8.1%	220,816 69.7%	316,757 100.0%
平成16年度	109,135 32.7%	24,629 7.4%	59,158 17.7%	25,348 7.6%	224,698 67.3%	333,833 100.0%
平成17年度	118,509 35.3%	29,064 8.7%	59,704 17.8%	29,741 8.9%	217,058 64.7%	335,567 100.0%
平成18年度	131,385 41.5%	32,005 10.1%	68,777 21.7%	30,603 9.7%	184,967 58.5%	316,352 100.0%
平成19年度	137,061 48.5%	34,923 12.3%	70,257 24.8%	31,881 11.3%	145,744 51.5%	282,805 100.0%
平成20年度	126,544 51.2%	34,893 14.1%	62,795 25.4%	28,856 11.7%	120,845 48.8%	247,389 100.0%
平成21年度	105,097 82.0%	28,512 22.2%	50,900 39.7%	25,685 20.0%	23,050 18.0%	128,147 100.0%
平成22年度	85,538 57.6%	20,752 14.0%	41,518 28.0%	23,268 15.7%	62,977 42.4%	148,515 100.0%
平成23年度	133,068 55.2%	24,157 10.0%	83,562 34.7%	25,349 10.5%	108,042 44.8%	241,110 100.0%
平成24年度	125,214 61.4%	36,186 17.7%	67,159 32.9%	21,869 10.7%	78,670 38.6%	203,884 100.0%
平成25年度	122,682 64.1%	38,232 20.0%	58,137 30.4%	26,313 13.7%	68,731 35.9%	191,413 100.0%

区 分	学 校	学 校			学校以外	合計
		小学校	中学校	高校・大学		
平成26年度	111,890 60.9%	32,938 17.9%	56,823 30.9%	22,129 12.0%	71,837 39.1%	183,727 100.0%
平成27年度	111,875 60.5%	33,279 18.0%	55,776 30.2%	22,820 12.3%	73,107 39.5%	184,982 100.0%
平成28年度	102,164 61.3%	31,082 18.7%	51,594 31.0%	19,488 11.7%	64,415 38.7%	166,579 100.0%
平成29年度	97,516 59.5%	30,679 18.7%	44,099 26.9%	22,738 13.9%	66,284 40.5%	163,800 100.0%
平成30年度	97,174 55.2%	32,521 18.5%	45,985 26.1%	18,668 10.6%	78,883 44.8%	176,057 100.0%
令和元年度	99,920 61.8%	32,014 19.8%	46,144 28.5%	21,762 13.5%	61,816 38.2%	161,736 100.0%
令和2年度	16,646 79.5%	7,822 37.4%	5,475 26.1%	3,349 16.0%	4,296 20.5%	20,942 100.0%
令和3年度	37,536 82.9%	15,095 33.3%	11,363 25.1%	11,078 24.5%	7,731 17.1%	45,267 100.0%
令和4年度	113,196 82.1%	26,911 19.5%	47,739 34.6%	38,546 27.9%	24,762 17.9%	137,958 100.0%
令和5年度	110,687 69.4%	28,516 17.9%	53,805 33.7%	28,366 17.8%	48,772 30.6%	159,459 100.0%
令和6年度	107,064 67.1%	28,852 18.1%	50,551 31.7%	27,661 17.3%	52,401 32.9%	159,465 100.0%
令和7年度	104,606 65.2%	29,254 18.2%	48,701 30.4%	26,651 16.6%	55,761 34.8%	160,367 100.0%



(単位: 人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小・中学校	1,635	10,504	7,110	1,940	291	7,361	10,320	11,660	8,357	9,162	7,021	2,594	77,955
高校・大学	1,075	1,151	659	505	373	2,249	8,979	6,307	3,961	279	467	646	26,651
合 計	2,710	11,655	7,769	2,445	664	9,610	19,299	17,967	12,318	9,441	7,488	3,240	104,606

・令和7年度は、団体種別で「学校」が65.2%を占める割合となった。

5 来館者アンケートの概要

来館者の属性、来館動機、施設の評価等を把握するため、アンケート調査を実施した。
調査結果の概要は次のとおり。

項 目	内 容
調査対象及び方法	・ 一般来館者 ・ 西館 2 階、東館 2 階、東館 1 階にて調査票手渡し自記入及び聞き取り記入 ・ 回収箱（西館 2 階、東館 2 階、東館 1 階）・郵送・FAXにて回答
実施時期	令和 7 年 12 月 26 日（金）～令和 8 年 2 月 25 日（水）
回答状況	・ 回答数 483 件 ・ 無効数 3 件（白紙 1 件） ・ 有効回答数 480 件（有効回答率：99.4%）

(1) 回答者属性

① 年代別

区 分	標本数	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
回答数	480	70	66	66	104	81	62	28	3
比率（%）	100.0	14.6	13.8	13.8	21.7	16.9	12.9	5.8	0.6

「40代」の来館者が 21.7%で最も多く、次いで「50代」の来館者が多かった。

② 性別

区 分	標本数	男性	女性	その他	無回答
回答数	480	234	222	2	22
比率（%）	100.0	48.8	46.3	0.4	4.6

男女比では、男性の来館者の方が多かった。

③ 居住地別

区 分	標本数	神戸市内	兵庫県内	近畿圏内	その他	無回答
回答数	480	98	108	103	164	7
比率（%）	100.0	20.4	22.5	21.5	34.2	1.5

※「兵庫県内」：神戸市内を除く

※「近畿圏内」：兵庫県内を除く

④ 職業等別

区 分	標本数	学生	民間就業者	学校教員	公務員 (教員以外)	地域団体等	無職・その他	無回答
回答数	480	100	197	29	31	44	64	15
比率（%）	100.0	20.8	41.0	6.0	6.5	9.2	13.3	3.1

【学 生】→「小学生」、「中学生」、「高校生」、「大学生・専門学校生」

【民 間 就 業 者】→「自営業」、「会社員（役員含む）」

【学 校 教 員】→「学校教員」

【公務員（教員以外）】→「公務員（教員以外）」

【地 域 団 体 等】→「地域団体」「専業主婦」

【無 職 ・ そ の 他】→「無職」、「その他」

(2) 来館行動

① 同伴者（1つ選択）

区 分	標本数	ひとりで	家族・親戚と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
回答数	480	98	280	60	28	14	1
比率（％）	100.0	20.4	58.3	12.5	5.8	2.9	0.2
・年代別							
10代	70	4	55	6	5	1	0
	100.0	5.7	78.6	8.6	7.1	1.4	0.0
20代・30代	132	30	63	28	5	6	0
	100.0	22.7	47.7	21.2	3.8	4.5	0.0
40代・50代	185	37	119	17	6	5	1
	100.0	20.0	64.3	9.2	3.2	2.7	0.5
60代・70歳以上	90	27	40	9	12	2	0
	100.0	30.0	44.4	10.0	13.3	2.2	0.0
無回答	3	0	3	0	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・性別							
男性	234	69	116	26	16	7	0
	100.0	29.5	49.6	11.1	6.8	3.0	0.0
女性	222	25	152	29	10	6	1
	100.0	11.3	68.5	13.1	4.5	2.7	0.5
その他	2	0	1	1	0	0	0
	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
無回答	22	4	11	4	2	1	0
	100.0	18.2	50.0	18.2	9.1	4.5	0.0
・住所別							
神戸市内	98	11	68	16	1	2	0
	100.0	11.2	69.4	16.3	1.0	2.0	0.0
兵庫県内	108	13	80	11	1	4	0
	100.0	12.0	74.1	10.2	0.9	3.7	0.0
近畿圏内	103	24	52	12	14	1	0
	100.0	23.3	50.5	11.7	13.6	1.0	0.0
その他の地域	164	48	78	20	10	7	1
	100.0	29.3	47.6	12.2	6.1	4.3	0.6
無回答	7	2	2	1	2	0	0
	100.0	28.6	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0
・職業等別							
学生	100	13	62	20	5	1	0
	100.0	13.0	62.0	20.0	5.0	1.0	0.0
民間就業者	197	46	109	22	8	11	1
	100.0	23.4	55.3	11.2	4.1	5.6	0.5
学校教員	29	8	16	3	2	0	0
	100.0	27.6	55.2	10.3	6.9	0.0	0.0
公務員（教員以外）	31	9	13	5	3	1	0
	100.0	29.0	41.9	16.1	9.7	3.2	0.0
地域団体等	44	2	36	2	4	0	0
	100.0	4.5	81.8	4.5	9.1	0.0	0.0
無職・その他	64	17	36	5	5	1	0
	100.0	26.6	56.3	7.8	7.8	1.6	0.0
無回答	15	3	8	3	1	0	0
	100.0	20.0	53.3	20.0	6.7	0.0	0.0

全体：「家族・親戚と」訪れた来館者が最も多く、次いで「ひとりで」訪れた来館者が多かった。

年齢：どの年代でも「家族・親戚と」訪れた来館者が最も多かった。

性別：男女ともに「家族・親戚と」訪れた来館者が多かった。男性は女性に比べて「ひ

とりで」訪れた来館者も多かった。

住所：どの地域でも「家族・親戚と」訪れた来館者が最も多かった。

職業：どの職業でも「家族・親戚と」訪れた来館者が多かった。

② 観覧予約をしたかどうか（「団体で」回答対象者：1つ選択）

区 分	標本数	はい	いいえ	無回答
回答数	28	15	10	3
比率（％）	100.0	53.6	35.7	10.7

区分	団体	個人	無回答
令和7年度	5.8	94.0	0.2
令和6年度	6.0	92.6	1.4
令和5年度	6.0	92.3	1.7

「団体で」訪れた来館者中、「予約をした」と回答した来館者は53.6%で、「予約をしなかった」と回答した来館者は35.7%だった。

③ 来館回数（1つ選択）

区 分	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回以上	無回答	平均
回答数	480	367	73	9	5	4	2	0	0	0	0	0	20	1.29
比率（％）	100.0	76.5	15.2	1.9	1.0	0.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	

例年同様、「はじめて」の来館者が最も多かった。

区 分	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回以上	無回答	平均
・ 年齢別														
10代	70	50	15	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1.28
	100.0	71.4	21.4	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	
20代・30代	132	104	17	1	2	1	0	0	0	0	0	0	7	1.23
	100.0	78.8	12.9	0.8	1.5	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	
40代・50代	185	146	25	3	2	1	1	0	0	0	0	0	7	1.26
	100.0	78.9	13.5	1.6	1.1	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	
60代・70歳以上	90	66	14	3	1	2	1	0	0	0	0	0	3	1.41
	100.0	73.3	15.6	3.3	1.1	2.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	
無回答	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.67
	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
・ 性別														
男性	234	172	45	7	2	2	0	0	0	0	0	0	6	1.32
	100.0	73.5	19.2	3.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	
女性	222	174	27	2	3	2	2	0	0	0	0	0	12	1.28
	100.0	78.4	12.2	0.9	1.4	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	
その他	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.00
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無回答	22	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1.05
	100.0	86.4	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	
・ 住所別														
神戸市内	98	61	25	3	1	1	0	0	0	0	0	0	7	1.42
	100.0	62.2	25.5	3.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	
兵庫県内	108	72	26	2	3	0	2	0	0	0	0	0	3	1.47
	100.0	66.7	24.1	1.9	2.8	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	
近畿圏内	103	89	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	1.14
	100.0	86.4	6.8	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	
その他の地域	164	140	15	3	0	2	0	0	0	0	0	0	4	1.18
	100.0	85.4	9.1	1.8	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	
無回答	7	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.33
	100.0	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	

区 分	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回以上	無回答	平均
・職業等別														
学生	100	72	19	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6	1.28
	100.0	72.0	19.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	
民間 就業者	197	159	27	4	2	1	0	0	0	0	0	0	4	1.23
	100.0	80.7	13.7	2.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
学校教員	29	18	4	1	1	2	1	0	0	0	0	0	2	1.81
	100.0	62.1	13.8	3.4	3.4	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	
公務員 (教員以外)	31	21	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.40
	100.0	67.7	22.6	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	
地域 団体等	44	35	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1.17
	100.0	79.5	15.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	
無職・ その他	64	50	7	1	0	1	1	0	0	0	0	0	4	1.30
	100.0	78.1	10.9	1.6	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	
無回答	15	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.14
	100.0	80.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	

年齢：全世代において「はじめて」の来館者が最も多かった。「60代・70歳以上」の来館者の平均来館回数は、他の世代の来館者に比べて多かった。

性別：男女ともに「はじめて」の来館者が多かった。平均来館回数は「男性」の方が多かった。

住所：全地域において「はじめて」の来館者が最も多かった。「兵庫県内」在住の来館者の平均来館回数はそれ以外の地域在住の来館者に比べて多かった。

職業：職業に関わらず、「はじめて」の来館者が最も多かった。「学校教員」の来館者の平均来館回数は他の職業の来館者に比べて多かった。

④ 交通手段（複数選択）

区 分	標本数	車	タクシー	バス	JR	阪神電車	阪急電車	徒歩・ 自転車のみ	その他	無回答
回答数	480	204	13	30	67	118	28	29	6	2
回答数に占める割合(%)		42.5	2.7	6.3	14.0	24.6	5.8	6.0	1.3	0.4
・住所別										
神戸市内	98	48	0	3	10	15	4	16	1	1
		49.0	0.0	3.1	10.2	15.3	4.1	16.3	1.0	1.0
兵庫県内	108	60	1	3	15	19	12	1	1	0
		55.6	0.9	2.8	13.9	17.6	11.1	0.9	0.9	0.0
近畿圏内	103	44	1	7	16	32	5	1	2	0
		42.7	1.0	6.8	15.5	31.1	4.9	1.0	1.9	0.0
その他の地域	164	52	11	14	24	49	7	11	2	1
		31.7	6.7	8.5	14.6	29.9	4.3	6.7	1.2	0.6
無回答	7	0	0	3	2	3	0	0	0	0
		0.0	0.0	42.9	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0

「車」での来館が最も多かった。次いで「阪神電車」での来館が多かった。

住所別にみると、どの地域でも「車」での来館が多かった。次いで「神戸市内」在住の来館者では「徒歩・自転車のみ」が多く、そのほかの地域では「阪神電車」での来館が多かった。

⑤ 人と防災未来センターを何で知ったか（複数回答）

区 分	標本数	新聞	雑誌	TV・ラジオ	講習会、講演会、研修会、展示会等	インターネット	ポスター・ちらし	学校からの紹介	人からの紹介、口コミ	旅行代理店	各種団体	その他	無回答
回答数 回答数に占める割合(%)	480	22 4.6	2 0.4	27 5.6	15 3.1	155 32.3	24 5.0	26 5.4	140 29.2	4 0.8	12 2.5	104 21.7	9 1.9
・ 年齢別													
10代	70	1 1.4	0 0.0	1 1.4	0 0.0	16 22.9	3 4.3	11 15.7	16 22.9	0 0.0	5 7.1	21 30.0	1 1.4
20代・30代	132	2 1.5	0 0.0	4 3.0	4 3.0	52 39.4	6 4.5	5 3.8	41 31.1	0 0.0	1 0.8	27 20.5	2 1.5
40代・50代	185	8 4.3	1 0.5	9 4.9	6 3.2	63 34.1	8 4.3	8 4.3	59 31.9	1 0.5	2 1.1	44 23.8	3 1.6
60代・70歳以上	90	11 12.2	1 1.1	13 14.4	5 5.6	23 25.6	7 7.8	2 2.2	23 25.6	3 3.3	4 4.4	11 12.2	3 3.3
無回答	3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
・ 住所別													
神戸市内	98	9 9.2	0 0.0	6 6.1	2 2.0	21 21.4	8 8.2	12 12.2	32 32.7	0 0.0	2 2.0	23 23.5	4 4.1
兵庫県内	108	7 6.5	1 0.9	6 5.6	0 0.0	36 33.3	7 6.5	9 8.3	25 23.1	1 0.9	1 0.9	27 25.0	2 1.9
近畿圏内	103	3 2.9	1 1.0	10 9.7	9 8.7	30 29.1	3 2.9	2 1.9	28 27.2	0 0.0	7 6.8	20 19.4	2 1.9
その他の地域	164	3 1.8	0 0.0	5 3.0	4 2.4	66 40.2	5 3.0	3 1.8	53 32.3	3 1.8	2 1.2	31 18.9	1 0.6
無回答	7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	3 42.9	0 0.0
・ 職業等別													
学生	100	1 1.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	24 24.0	3 3.0	15 15.0	31 31.0	0 0.0	5 5.0	27 27.0	1 1.0
民間就業者	197	10 5.1	0 0.0	11 5.6	6 3.0	75 38.1	12 6.1	3 1.5	50 25.4	2 1.0	2 1.0	44 22.3	4 2.0
学校教員	29	0 0.0	0 0.0	2 6.9	2 6.9	11 37.9	0 0.0	0 0.0	10 34.5	0 0.0	1 3.4	7 24.1	1 3.4
公務員 (教員以外)	31	0 0.0	0 0.0	2 6.5	5 16.1	9 29.0	0 0.0	0 0.0	13 41.9	0 0.0	0 0.0	6 19.4	0 0.0
地域団体等	44	4 9.1	2 4.5	4 9.1	2 4.5	18 40.9	3 6.8	4 9.1	10 22.7	2 4.5	2 4.5	6 13.6	0 0.0
無職・その他	64	7 10.9	0 0.0	6 9.4	0 0.0	16 25.0	6 9.4	3 4.7	16 25.0	0 0.0	2 3.1	10 15.6	3 4.7
無回答	15	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0	1 6.7	10 66.7	0 0.0	0 0.0	4 26.7	0 0.0

全体：「インターネット」で知ったという回答が最も多く、次いで「人からの紹介、口コミ」で知ったという回答が多かった。

年齢：「10代」は「その他」で知ったという回答が最も多くなっている。「20代・30代」「40代・50代」は「インターネット」で知ったという回答が最も多くなった。「60代・70歳以上」では「インターネット」「人からの紹介、口コミ」で知ったという回答が最も多くなった。

住所：「神戸市内」は「人からの紹介、口コミ」が多くなっており、それ以外の地域の来館者は「インターネット」で知ったという回答が最も多くなった。特に「その他の地域」では「インターネット」と回答した来館者が4割と多くなっている。

職業：「学生」「公務員（教員以外）」は「人からの紹介、口コミ」の回答が最も多い。また、

「無職・その他」は「インターネット」「人からの紹介、口コミ」の回答が最も多い。
それ以外の職業は「インターネット」で知ったという回答が最も多い。

⑥ 来館動機（複数回答）

区 分	標本数	阪神・淡路大震災について学ぶ・知るため	防災・減災について学ぶため	語り部の体験談を聞くため	研究員のセミナーを聞くため	家族・友人・知人に勧められたため	ツアーに組み込まれていたため	学校行事（修学旅行・校外学習等）	会社・団体（研修旅行等）	震災30年特別展示「1995.11.7から30年」をみるため	西館1階企画展をみるため	「BOSAIサイエンスフィールド」体験のため	「にげよう！大切な命を守るため」をみるため	その他	無回答
回答数 回答数に占める割合（%）	480	361 75.2	247 51.5	15 3.1	1 0.2	68 14.2	1 0.2	7 1.5	22 4.6	8 1.7	3 0.6	11 2.3	6 1.3	35 7.3	9 1.9
・ 年齢別															
10代	70	48 68.6	25 35.7	5 7.1	0 0.0	17 24.3	0 0.0	4 5.7	0 0.0	2 2.9	0 0.0	2 2.9	0 0.0	6 8.6	2 2.9
20代・30代	132	88 66.7	63 47.7	2 1.5	0 0.0	16 12.1	0 0.0	0 0.0	8 6.1	1 0.8	1 0.8	3 2.3	2 1.5	7 5.3	2 1.5
40代・50代	185	151 81.6	104 56.2	4 2.2	0 0.0	21 11.4	0 0.0	1 0.5	8 4.3	1 0.5	0 0.0	5 2.7	1 0.5	13 7.0	4 2.2
60代・70歳以上	90	72 80.0	54 60.0	4 4.4	1 1.1	13 14.4	1 1.1	2 2.2	6 6.7	3 3.3	2 2.2	1 1.1	3 3.3	9 10.0	1 1.1
無回答	3	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
・ 住所別															
神戸市内	98	70 71.4	39 39.8	2 2.0	0 0.0	17 17.3	0 0.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	4 4.1	2 2.0	11 11.2	1 1.0
兵庫県内	108	85 78.7	59 54.6	3 2.8	0 0.0	11 10.2	0 0.0	1 0.9	1 0.9	2 1.9	1 0.9	2 1.9	0 0.0	5 4.6	2 1.9
近畿圏内	103	70 68.0	52 50.5	2 1.9	0 0.0	18 17.5	0 0.0	2 1.9	12 11.7	2 1.9	0 0.0	1 1.0	1 1.0	8 7.8	2 1.9
その他の地域	164	131 79.9	93 56.7	7 4.3	1 0.6	20 12.2	1 0.6	3 1.8	8 4.9	3 1.8	2 1.2	4 2.4	3 1.8	11 6.7	4 2.4
無回答	7	5 71.4	4 57.1	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
・ 職業等別															
学生	100	69 69.0	35 35.0	6 6.0	0 0.0	23 23.0	0 0.0	4 4.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	8 8.0	2 2.0
民間就業者	197	140 71.1	115 58.4	5 2.5	0 0.0	24 12.2	0 0.0	0 0.0	16 8.1	1 0.5	0 0.0	3 1.5	1 0.5	11 5.6	3 1.5
学校教員	29	27 93.1	16 55.2	0 0.0	0 0.0	3 10.3	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 17.2	0 0.0
公務員 （教員以外）	31	28 90.3	23 74.2	3 9.7	0 0.0	1 3.2	0 0.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0
地域団体等	44	36 81.8	22 50.0	0 0.0	0 0.0	5 11.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 6.8	1 2.3	2 4.5	1 2.3
無職・その他	64	52 81.3	29 45.3	1 1.6	1 1.6	8 12.5	1 1.6	3 4.7	3 4.7	4 6.3	3 4.7	3 4.7	4 6.3	6 9.4	1 1.6
無回答	15	9 60.0	7 46.7	0 0.0	0 0.0	4 26.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	2 13.3

全体：「阪神・淡路大震災について学ぶ・知るため」が来館動機として最も多く、次いで「防災・減災について学ぶため」の来館動機が多かった。全体の75%以上の人々が「阪神・淡路大震災について学ぶ・知るため」を来館動機に回答している。

年齢：全ての年代で「阪神・淡路大震災について学ぶ・知るため」が最も多く、次いで「防災・減災について学ぶため」が来館動機として多かった。

住所：全ての地域在住の来館者で、「阪神・淡路大震災について学ぶ・知るため」が来館動機として最も多く、次いで「防災・減災について学ぶため」が来館動機として

多かった。

職業：全ての職業で、「阪神・淡路大震災について学ぶ・知るため」が最も多く、次いで「防災・減災について学ぶため」が来館動機として多かった。

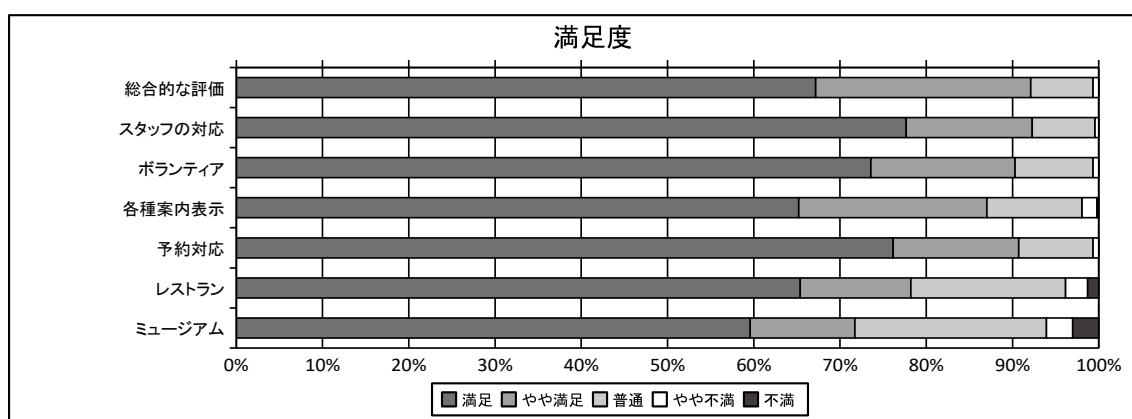
来館動機「その他」回答：

- ・震災の展示の仕方を学ぶため
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館（福島県双葉町）との比較において感心がありました。
- ・息子が消防士になったため
- ・熊本地震を経験したため
- ・子どもが校外学習で訪れもう一度来たいと言ったため
- ・年に1回は足を運んで経験したことを思い出そうと思っているため

（3）満足度（1つ選択）

区 分	有効 標本数	満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	あまり満足 していない	満足してい ない	無回答	今回 平均	前回 平均	前々回 平均
総合評価	457 100.0%	307 67.2%	114 24.9%	33 7.2%	3 0.7%	0 0.0%	23 -	4.59	4.62	4.68
アテンダント の対応	466 100.0%	362 77.7%	68 14.6%	34 7.3%	2 0.4%	0 0.0%	14 -	4.70	4.64	4.73
ボランティア の対応	454 100.0%	334 73.6%	76 16.7%	41 9.0%	3 0.7%	0 0.0%	26 -	4.63	4.58	4.69
各種案内表示	463 100.0%	302 65.2%	101 21.8%	51 11.0%	8 1.7%	1 0.2%	17 -	4.50	4.54	4.60
予約対応	151 100.0%	115 76.2%	22 14.6%	13 8.6%	1 0.7%	0 0.0%	329 -	4.66	4.59	4.67
レストラン	78 100.0%	51 65.4%	10 12.8%	14 17.9%	2 2.6%	1 1.3%	402 -	4.38	3.97	3.00
ミュージアム ショップ	99 100.0%	59 59.6%	12 12.1%	22 22.2%	3 3.0%	3 3.0%	381 -	4.22	3.76	3.56

「総合評価」で、「満足している」「やや満足している」の評価をあわせると9割を超えた。

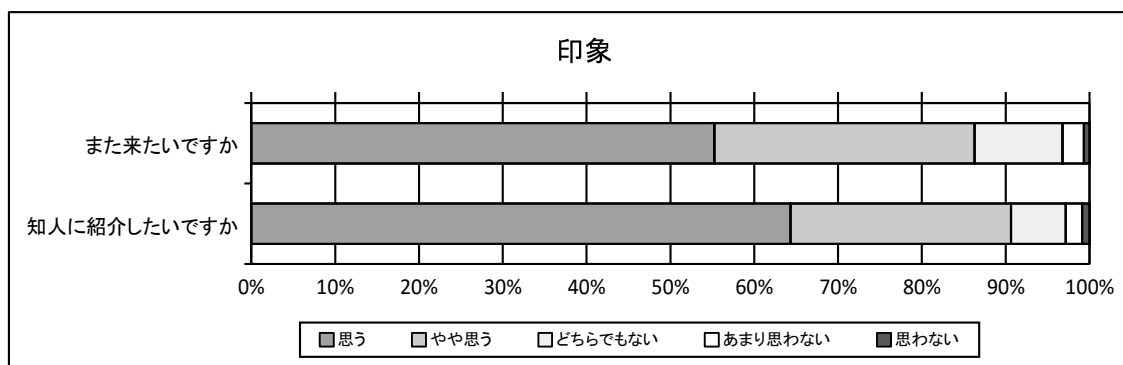




(4) 印象（1つ選択）

区 分	有効 標本数	是非来たい 紹介したい	機会があれば	どちらでも ない	どちらかといえば したくない	しない	無回答	平均	令和6年度	令和5年度
また来たいですか	467 100.0%	258 55.2%	145 31.0%	49 10.5%	12 2.6%	3 0.6%	13 -	4.38	4.37	4.52
知人に紹介したいですか	460 100.0%	296 64.3%	121 26.3%	30 6.5%	9 2.0%	4 0.9%	20 -	4.51	4.53	4.67

当館への再訪、知人への紹介について、約9割の来館者が肯定的な回答をした。



2 節 常設展示の概要

1 項 西館

エントランス、ロビーのほか、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝える「震災追体験フロア」（4階）、「震災の記憶フロア」（3階）及び地震災害を中心に防災・減災について学ぶ「防災・減災体験フロア」（2階）を配置している。

なお、館内（西・東館展示フロア）の新たな3D&VR映像や観覧順路アニメを作成し、ホームページに公開している。

【主な経緯】

○平成14年4月27日一般公開開始

○平成19年度

開館後の時間経過に伴う復興過程の新たな情報を追記するとともに、来館者に震災の情報等をより分かりやすく伝える観点から、西館全体にわたり展示改修を検討、実施。

・平成19年10月30日 資料室を2階から5階に移転

・平成20年1月9日 リニューアルオープン



館内 VR（東館3階）

1 エントランス：1階

(1) 南海トラフ地震の想定津波高表示（館内）

来館者が、南海トラフ地震による津波の被害について、より実感をもって理解し、また、災害に対する備えへの意識を高めることができるように、館内に展示可能な懸垂幕に県庁所在地や政令市等における想定津波高を表示し展示した。（平成28年度設置）



2 震災追体験フロア：4階

(1) 震災以前のまち（1.17シアター前室）

震災以前の神戸のまち並みの切り絵を展示し、照明と音響の演出により来館者を震災前夜にタイムスリップさせ、次の1.17シアターから始まる震災追体験に効果的につなげる空間を創出している。

(2) 1.17シアター（「5:46の衝撃」）

平成7（1995）年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生した。その瞬間、阪神・淡路地域で何が起こったのかを体感できるよう、特殊撮影やコンピューターグラフィックの映像を駆使して、崩壊していくビル、家屋、高速道路、鉄道などの様子を再現している。また、破壊され燃え上がる街の様子を、不定形多面体スクリーンの映像や立体音響システムなどにより、臨場感高く表現している。

（平成28年度に、スクリーン及び全プロジェクターを改修するとともに、入口前に多言語解説看板を設置）



①映像モチーフ

高度に機能集積した近代都市の脆弱性を明らかにするため、都市基盤崩壊の様相を特徴的に示すモチーフを、映像イメージ、阪神・淡路地区の都市構造・建築・土木構造の分析、被害の概要の視点から選定し提供している。

被害分類	映像構成モチーフ	映像イメージ
住宅地	淡路島旧北淡町住宅群	激しく揺れる木造の住宅群が将棋倒しになる情景 タンスが倒れ天井が崩落する住宅の中を住民の視点で見たカット
商店街	神戸市内商店街	崩れる看板、倒れる自動販売機、 がれき 瓦礫と化す商店、商品が崩れ乱れ飛ぶ商店内のカット
都市部	神戸市内高層ビル 神戸市内病院 明石市立天文科学館 港湾の被害	大きく揺れるビル街、オフィスの窓ガラスが飛び散り壁面に走るクラック、飛び散る壁、舞い上がる粉じん、中層階の崩壊する病院、5:46を指したまま止まる時計
交通機関	私鉄電車	金属のきしみとともに正面の波打つ線路 脱線転覆する電車、崩れる高架
	私鉄駅舎	電車が駅舎にめり込み重い衝撃が広がり陥没崩壊する駅舎
	阪神高速道路3号神戸線	うねり始める道路、車がハンドルを取られて蛇行する様子を車を運転する人の視点で見たカット 橋柱に亀裂、折れる橋柱、横倒しになる高速道路
地震火災	神戸市内住宅街	火災発生の状況

② 収容人員 約 150 人

③ 上映時間 約 7 分

(3) 震災直後のまち

強烈な地震動により破壊された極限状態のまちをジオラマ模型で再現し、破壊状況に茫然自失^{ぼう}となった被災者と同じ状況を体感する。

(令和6年3月にアンプスピーカー更新)



区 分	イメージ
壊れた医院	建物が傾き今にも倒壊しそうな医院。天井から落下しそうなベッド。天井の床が抜け落ち壁が崩壊
階下が押し潰された鉄筋コンクリートのマンション	夫婦の布団、ベビーベッド、倒れた家具。散乱する台所用品、潰れた階層では家具調度品が押し潰されている
壊れた木造家屋	1階部分が押し潰されて下敷きになった車と2階和室に散乱する家具、生活用品
焼け落ちた市場のアーケード	焼け焦げたアーケードの向こうには、焼け落ちた波トタンや鉄骨、木材等の瓦礫。さらには、その奥に焦土と化した街の遠景写真が広がる
垂れ下がる線路	倒れこむ高架橋、その上には不安定にねじ曲がった線路が宙に浮いている

(4) 大震災ホール（「このまちと生きる」）

地震発生から復興していくまちの人々の姿の報道実写資料を編集した映像に合わせて、多くの被災者が感じたであろう気持ちや、復興過程の光と影の両面からの事実、教訓について、1人の女性がモノローグにより被災地からのメッセージとして語っていく。

① 収容人員 150人（椅子席）

② 上映時間 約15分

③ 字幕表示

聴覚障害者のためにスクリーン下部に、映像に合わせてナレーションなどを字幕表示している。

④ 発光ダイオード（LED）字幕表示システム

スクリーン右横に取り付けた表示板の電光文字により、映像内容についての事前説明を表示している。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会335複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。（平成18年1月16日設置）

⑤ その他 外国語翻訳ガイド機器110台（英語・中国語・韓国語・ベトナム語）（平成25年度更新、但し、ベトナム語は平成30年3月25日追加）



3 震災の記憶フロア：3階

(1) 被災の状況「震災時のNHKの映像」

震災当日の報道映像を中心に市町ごとの被災の詳細について、被災地の実写映像と地図を重ね合わせ、震度分布や火災等の被災状況の広がりを天井から吊り下げた液晶パネルで、視覚的に伝えている。



(2) まちの変化（定点観測）

同じ場所の被災時と現在を映像で対比し、復興の姿を伝えている。

〈定点観測地点〉

ア 神戸市・三宮 イ 六甲道 ウ 神戸港 エ 大正筋商店街

オ 西宮市・仁川百合野町 カ 明石海峡大橋 キ 生田神社 ク 阪神高速道路

(3) 震災オリエンテーション

① 復興への道

震災直後からの復興過程を5つのシーンに分け、それぞれの時期における人の暮らしとまちなみの象徴的なシーンをジオラマで表現するとともに、体験談映像と運営ボランティアによる解説を加え、復興の全体像をわかりやすく伝えている。なお、平成26年度に、ジオラマをより近くから見ていただけるよう透明カバーを設置した。



<5つのシーン>

時 期	テーマ	まちなみの ジオラマ	人の暮らしの ジオラマ
震災直後	つぶれた家の中から見た被災地 「生と死のあいだで」	破壊したまち	倒壊した家屋
2週間後	緊急避難と今後の不安「避難 所のつらさとあたたかさ」	ブルーシートの まち	避難所での共同 生活
3～6か月後	再建への第一歩「それぞれの 再建への動き」	復旧を急ぐまち	応急仮設住宅の 新たな生活
1～3年後	復旧と再建の狭間で「まちづ くりの理想と現実」	再建が進むまち	それぞれの住宅 再建
10年以降	継承することの意味、難しさ 「活動し続ける被災地」	復興したまち	ふれあいのある 暮らし

(平成28年度に、5つのシーン毎に多言語解説看板を設置)

② 震災の復興過程における課題・震災復興年表

復興過程の主な課題をフェーズ・分野ごとに整理した震災の復興過程における課題と震災復興年表を展示している。なお、平成27年度に年表の見直しや追加を行った。

(4) 震災からの復興をたどる「震災学習テーブル」

震災直後からの復興過程における事象や震災の教訓等について、4つのテーマからなる震災学習テーブルに、各テーマに係る映像、実物資料、グラフィック等をタッチパネル方式で電子ブック化し、展示している。(4か国語対応)

(令和7年度映像モニター更新)



<4つのテーマ>

① 生と死のあいだで

いのちを守る、生と死の岐路、生きていくために、広がる不安、二次災害

⑤ 復旧の苦しみ

避難所の暮らし、復旧への道、応急仮設住宅、助け合い・ボランティア

③ まちとこころの復興

生活・福祉復興、産業復興、住宅復興、文化復興

④ 震災から生まれたもの

提言、災害に備える、ボランティア・NPO、伝えたいこと、震災を忘れない

(5) 震災の記憶を残す「記憶の壁」

市民の協力により収集された震災関連資料を資料提供者の体験談とともに展示している。展示資料は、実物(立体物)、写真、手記等であり、紙資料を被災環境の変化に沿って

壁部分に展示、また、実物資料を壁前面に展示している。

(写真:約 500 点、手記:約 260 点、実物資料:約 70 点)

また、各壁面にそのテーマを端的に表す資料をピックアップし、展示している。

- ① 被災：鷹取商店街の看板
- ② 避難・復旧：ふれあいセンターのベンチと
鯉のぼり
- ③ 復興・語り継ぐ：子供たちの震災新聞
(平成 28 年度に、コーナー冒頭部分に多言語解説看板を設置)



(6) 震災資料のメッセージ

センター資料室が所蔵する実物資料を、テーマにそって「スポット展示」として順次紹介している（平成 25 年度から実施、実施内容は資料収集・保存の章に記載）。

(7) スマートフォン用ガイドシステム

平成 25 年度に、個人のスマートフォン、タブレットで文字音声ガイドを利用できる展示ガイド（Wi-Fi）システムを構築し、令和 5 年度にクラウド化を行い、パスワードにより施設外でも展示物のデータが利用できるようにした。（令和 6 年 4 月から運用開始）

(8) 震災・復興メッセージ

体験談をパソコン画面で、座ってゆったりと閲覧、検索することができる。

(9) 語り部コーナー

語り部ボランティアが自らの震災体験を生で語るほか、震災に関わった人々（被災者、医療関係者、消防団員、県警機動隊員等 25 名、ユース震災語り部 27 名）がビデオによる体験談を伝えている。

平成 24 年度には、視聴覚障害者のため、語り部映像に字幕を付加するとともに、「被災体験を語り継ぐ阪神・淡路大震災～ろうあ者の 1.17～」(DVD) のモニターを設置した。

また、平成 28 年度からは、1 月を除く毎月 17 日の無料開館にあわせて語り部ボランティアによる「語り部ワークショップ」を実施している。また、来館者が見学後の感想等を残すことができるメッセージボードを設置している。

さらに令和 3 年度からは、7 言語に翻訳したビデオによる体験談が視聴できるタッチパネル端末を設置している。（7 言語:英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語）



(10) 被災したわがまちの光景～記録写真でたどる阪神・淡路大震災～

資料室収蔵の被災写真（113 枚）を天井から吊り下げた大型液晶パネルで閲覧できるようにしている。

(平成 29 年度大型液晶パネル更新)



4 防災・減災体験フロア：2階

(1) 災害の衝撃（ディザスターインパクト）

地震、津波、台風、ハリケーン、竜巻、土砂災害、火山噴火の自然災害を実写映像で見せることにより、災害の脅威を訴え、自然災害への関心を高めるため、2階展示の導入部として設置している。令和5年度に、世界の災害の最新映像に更新作業を行った。（令和6年4月から運用開始）



(2) 地震と自然災害

地震発生に関する世界と日本の状況やさまざまな自然災害に関する理解を深めるデータをパネルで展示（令和元年度新設）



(3) 災害情報ステーション

① ニュースボード（デジタル電子新聞）

被災地から芽生えた活動が、国内外の災害支援等に広がっている様子を事例等により紹介している。

ア 被災地からの発信

イ 各種防災関係機関ニュース

ウ 災害調査レポート

② 未来へ向けた取り組み

国内外の災害の発生状況や教訓等をパネルで紹介している。



(4) 災害検索テーブル「地域の危険度情報」

日本国内の災害危険度等について、各防災関係機関のハザードマップをパソコンで検索することにより、自分の住んでいる地域の危険度や世界の巨大自然災害の発生状況を確認することができる。

令和5年度に、防災関係機関がホームページで提供する防災動画検索機能を追加した。



(5) ハザードマップ（タッチパネル方式）

来館者自らが触って、確認できるタッチパネル方式によるハザードマップを配置している。

名 称	内 容
河川洪水ハザードマップ及び神戸市地震津波減災マップ	高精細 3D デジタル地図、衛星写真などを組み合わせた県内主要6河川のタッチパネル方式の洪水ハザードマップと、神戸市中央区と兵庫区の地震津波減災マップ（株式会社神戸製鋼所寄贈）

(6) 防災・減災ワークショップ

防災・減災を学ぶ

災害・防災に関する知識を小学生などにも分かり易く、実験やゲームで体験しながら学ぶことができる防災ワゴンや体験キット等がある。

＜防災ワゴン＞

名 称	内 容
自主防災を考える	防災カードで持ち出しリュックを作る
家庭防災を知る	部屋の模型にミニチュア家具を配置し、振動を与える
まちの防災を考える	仮想のまちイラストカードでハザードマップを作る
避難所を考える	小学校を避難所として完成させるパズル
震度の単位を知る	キャラクター人形により、地震のエネルギーの大きさを対比
震度を知る	震度別被害イラストカードによる震度階級カルタ
活断層を知る	活断層ジグソーパズル
活断層を調べる	反射実験鏡を使い、航空写真から活断層を確認する

※平成 26 年度に、防災ワゴンに設置している「めくりシート」を更新

＜体験キット＞

名 称	内 容
防災勝ち抜きゲーム	自然災害に対して自分たちが生き延びることを考えるゲーム
防災すごろく	防災・減災について学ぶすごろく
サバイバル・ファミリー	都市型災害にあった時、家族がどう対応するかを考えるゲーム
神経衰弱ー非常持ち出し品合わせ	家庭の非常持ち出し品を考える神経衰弱ゲーム
防災カルタ	防災・減災の知識を学ぶいろはカルタ
紙芝居	防災・減災紙芝居『奈々ちゃんのひみつ』
防災グッズ体験	実際の防災グッズを自分で使ったり組み立てたりして体験

＜マグニチュードと地震のエネルギー＞

地震のエネルギーは、マグニチュードが 1 増えると約 32 倍、マグニチュードが 2 増えると 1,000 倍になることを球状の模型の大きさで説明している。



＜最前線 防災ノウハウと防災グッズ＞

災害時に必要となる食料、水、日用品等の備蓄物資を展示し、各家庭での備えの実践を呼びかけている。

なお、平成 27 年度、31 年度によりわかりやすい展示となるよう内容の見直しを行った。



＜実験ステージ＞

実験ステージでは、運営ボランティアによる「耐震構造」、「液状化現象」、「家具転倒防止」、「木造耐震木組」の装置を使った実演や映像を活用し、防災・減災に役立つ解説を行っている。



(7) 防災未来ギャラリー

最新の防災トピックスなどを紹介する企画展を開催している。



5 外壁

南海トラフ巨大地震の最大津波高表示

南海トラフ地震の最大津波高の想定 34.4 m（高知県黒潮町）を外壁東面に表示した。（平成 28 年度設置）



6 大型実物資料展示：西館南側

(1) 阪神高速道路の損傷橋脚の基部

震災メモリアルとして阪神高速道路神戸線の壊れた橋脚の基部を阪神高速道路株式会社から譲り受け、西館南側に設置し、折れ曲がった内部の鉄筋を見せることで地震の破壊力の凄さを訴えている。（令和元年度に土木学会の「阪神・淡路大震災による被災構造物群」として認定された。）



(2) 「神戸の壁」ベンチ

1927 年に建てられた新長田・若松市場の防火壁が阪神・淡路大震災で残り、「神戸の壁」として保存されることとなった。この壁の基礎を造形した一部が「人と防災未来センター」に提供され、これを活用して、ベンチを西館南に設置している。

2項 東館

楽しみながら最新の防災知識を学んだり、自然災害に備える力を養うことができる「BOSAI サイエンスフィールド」（3 階）や、映像を上映する「こころのシアター」（1 階）の配置に加え、兵庫県が「阪神・淡路大震災の復興検証」及び「東日本大震災の復興支援への取組の成果」から導いた 106 の教訓をまとめた刊行物「伝える 1.17 は忘れないー阪神・淡路大震災 20 年の教訓ー」をパネル化して掲示（2 階）している。

【主な経緯】

○平成 15 年 4 月 26 日一般公開開始

○平成 21 年度

東館（旧ひと未来館）は、開館以降、癒しやコミュニケーションの空間を中心に、震災の教訓として「いのちの尊さ」、「共に生きることの大切さ」を伝えてきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、防災展示を充実させる方向で展示改修を検討、実施。

・平成 21 年 4 月 1 日 ひと未来館としての展示運営を休止

・平成 22 年 1 月 8 日 再オープン

① 新たに風水害を中心とした防災展示（映像）を整備

② 1 階の「こころのシアター」は継続

③ 防災未来館を「西館」、ひと未来館を「東館」と館の名称を変更

○平成 30 年度

以下の展示内容を盛り込む

- ①津波ガイダンス映像の追加（「風水害の脅威」コーナー）
- ②津波避難体験コーナー新設
- ③波高表示バナー及び津波被害エリア空撮マップ
- ④各自治体の津波対策及び防災情報パネル制作

○令和 2 年度

東館 3 階「水と減災について学ぶフロア」全体を「BOSAI サイエンスフィールド」として展示改修するため、令和 2 年 7 月 21 日から令和 3 年度のリニューアルオープンまで 3 階を閉鎖した。

○令和 3 年度

6 月 30 日東館 3 階「BOSAI サイエンスフィールド」リニューアルオープン

※当初は 4 月 27 日オープン予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出に伴いオープン日を延期した。

1 こころのシアター：1 階

災害に遭遇した時に自らの命を守るためにはどうするべきかを問いかける新作映像「にげようー大切な命を守るためにー」を、令和 4 年 4 月 5 日から上映開始した。

〔収容人員 150 人（椅子席）〕

- ① 制作 NHK エンタープライズ
- ② 監督 大島隆之
- ③ 語り 下野紘
- ④ 上映時間 約 15 分
- ⑤ その他 4 か国語システム機器 90 台（英語・中国語・韓国語・ベトナム語）（令和 7 年度更新）



2 BOSAI サイエンスフィールド：3 階

自然災害に遭遇したとき、自分や大切な人たちの命をまもるため、どのような行動をとれば良いのか。自分で考え、判断し、行動できる力を身に付けることができるフロアとなっている。

(1) ディザスターウォール

地球上で起こる自然現象と人々の生活が交わることで自然災害が発生することを学ぶ。



(2) ジオ&スカイホール

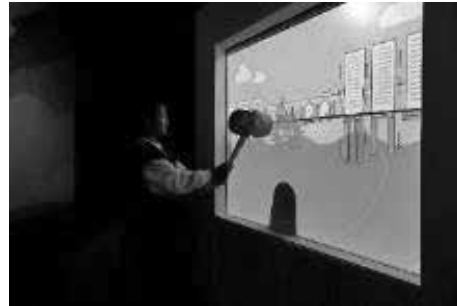
- ① プレートプッシュ
プレート運動により生じる地震や津波、火山噴火などが発生する事を理解する。
- ② マグニチュードパンチ
ハンマーで叩く強さや位置により、地上での揺れの変化を理解する。
- ③ ウェザーウォーク
自らが高気圧となって台風の進路を誘導していくことで、気象現象が起こる仕組みを学ぶ。

④ ウェーブメーカー

津波発生メカニズムや川を遡上する様子を理解する。



プレートプッシュ



マグニチュードパンチ



ウェザーウォーク



ウェーブメーカー

(3) ハザードVRポート

360度広がるVR映像や振動装置、音を用いて、地震、津波、風水害の3つの現場に実際にいるかのような疑似体験をし、その驚異を学ぶ。
(令和7年度機器更新)



(4) ミッションルーム

リアルに再現された住居（ミッションA）やコンビニ（ミッションB）で、自ら状況を判断して避難行動につなげるためのトレーニングを行う。



(5) クエスチョンキューブ

災害時の様々な場面を体験できる映像空間でクイズに答え、命を守る最善の行動力を身につけることができる。



(6) ディスカバリーラウンジ

防災・減災に関する最新の知識を学び、今後の取組や決意をメッセージとして残すコーナーを設けている。



3 節 企画展の概要

1 項 令和 7 年度に実施した企画展等（企画展、イベント、出展・アウトリーチ）一覧

<震災 30 年特別展示>

	開催期間	名 称
1	4月26日(土)～11月3日(月祝)	震災伝承の30年(これまで)と未来(これから) 再検証！ひとぼう 1.17 震災伝承コンテンツ 特撮美術監督三池敏夫が再現した阪神・淡路大震災
2	6月17日(火)～2月15日(日)	震災伝承の30年(これまで)と未来(これから) 『震災伝承』実践者からのメッセージ

<企画展>

	開催期間	名 称
1	5月27日(火)～6月22日(日)	第20回ほうさい甲子園令和6年度受賞校活動紹介展
2	7月19日(土)～8月17日(日)	夏休み防災未来学校2025
3	12月16日(火)～6月7日(日)	地震・火災・感震ブレイカー ～予防しよう！通電火災
4	1月25日(日)～2月13日(金)	令和7年度防災力強化県民運動ポスターコンクール受賞作品展示
5	2月17日(火)～3月15日(日)	3.11 東日本大震災 15 年。垣間見る、被災・復興地の現在進行形 ～ feat. 東北風土マラソン 2026
6	3月17日(火)～5月10日(日)	～大阪・関西万博でユースが見つけた防災のミライ～ BOSAI 世界地図展 2026

<イベント>

	開催期間	名 称
1	4月6日(日)、7月26日(土)、 3月8日(日)	災害伝承語り継ぎ探究サロン(全3回)
2	4月13日(日)、4月19日(日)、4月26日(土)、4月27日(日)、5月16日(金)、 5月24日(土)、5月25日(日)、5月31日(土)、6月8日(日)、6月21日(土)、 6月22日(日)、6月29日(日)、7月5日(土)、7月6日(日)、7月12日(土)、 7月13日(日)、7月23日(水)、7月30日(水)、8月6日(水)、8月9日(土)、 8月13日(水)、9月15日(月祝)、9月23日(火祝)、10月13日(月祝)	ひょうごフィールドパビリオン スペシャル・ガイドツアー(全30回)
3	7月23日(水)～8月3日(日)	未来を創る！建設のチカラ展
4	8月5日(火)～8月11日(月祝)	気象庁気象科学館とコラボ！「はれるんランド」で遊ぼう！
5	8月13日(水)～8月24日(日)	六甲山の災害展 2025
6	8月17日(日)	H A T 減災サマー・フェス 2025
7	9月20日(土)	ALL HAT 2025
8	7月27日(日)・12月20日(土)	おはなしひろば
9	1月17日(土)・3月28日(土)	企画展「地震・火災・感震ブレイカー ～予防しよう！通電火災」関連イベント 感震ブレイカー・デモンストレーション
10	1月25日(日)	イザ！美かえる大キャラバン 2026
11	2月11日(水祝)	阪神・淡路大震災から31年 南海トラフ巨大地震へ地域の備えを進めるセミナー・ワークショップ
12	3月29日(日)	企画展「～大阪・関西万博でユースが見つけた防災のミライ～ BOSAI 世界地図展 2026」関連イベント ～大阪・関西万博でユースが見つけた防災のミライ～ BOSAI 世界地図リアルミーティング in ひとぼう
13	1月を除く毎月17日 (休館日の場合は18日)	無料開館日特別プログラム 語り部ワークショップ

＜出展・アウトリーチ＞

	開催期間	名 称
1	4月26日(土)～4月27日(日)	レジリエンスセッション 震災と未来のこうべ博
2	5月18日(日)	COMIN' G KOBE 25
3	5月30日(金)	大阪・関西万博ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル 2025
4	7月3日(木)～7月4日(金)	震災対策技術展大阪
5	9月6日(土)～9月7日(日)	防災推進国民大会(ぼうさいこくたい) 2025
6	11月14日(金)～11月15日(土)	神戸マラソン EXPO 2025
7	1月31日(土)、2月7日(土)	脇の浜インフラゼロハウス
8	2月14日(土)	ひょうごミュージアムフェア
9	1～3月	巡回展

＜展示パネル貸出＞

	開催期間	名 称
1	4月26日(土)～4月27日(日)	レジリエンスセッション 震災と未来のこうべ博
2	4月26日(土)～4月27日(日)	第96回兵庫県メーデー神戸中央大会
3	7月6日(日)	丹波篠山市雲部地区総合防災訓練
4	7月7日(月)	全国日本電気・電子・情報関連産業労働組合連合会 兵庫地方協議会 第73回定期大会
5	7月16日(水)～7月18日(金)	第80回日本消化器外科学会総会
6	7月26日(土)	アクリエひめじ 防災デイキャン 2025
7	8月8日(日)～8月24日(日)	丹波篠山市中央図書館での防災啓発
8	9月20日(土)	創造的復興サミット
9	9月21日(日)～9月28日(日)	2025 ひょうごまちなみガーデンショー
10	10月11日(土)	次世代防災ジュニアリーダーによる「震災をつなぐ・伝える」 フォーラム
11	10月17日(金)～10月19日(日)	ロハスフェスタ東京 2025
12	10月19日(日)	イザ!カエルキャラバン! in 藤原台みんなの祭り 2025
13	10月21日(火)	神戸線条工場地震防災講演会
14	10月25日(土)	西播磨フロンティア祭
15	11月2日(日)	いま動こう!みんなで防災フェス 2025
16	11月7日(金)～11月14日(金)	神戸市立葺合中学 文化祭・学校公開ウィーク
17	11月16日(日)	第20回はりちゅうの日
18	11月19日(水)～11月21日(金)	総務・人事・経理Week 第10回関西オフィス防災 EXPO
19	1月15日(木)～1月16日(金)	神戸物産展
20	1月16日(金)～1月21日(木)	風見鶏の館 阪神・淡路大震災展示
21	1月17日(土)	体験 防災 フェス in Yabe
22	2月7日(土)	あまもり防災フェスタ

2項 企画展の概要

<震災 30 年特別企画>

1 震災伝承の 30 年（これまで）と未来（これから） 再検証！ひとぼう 1.17 震災伝承コンテンツ<第一期>（4 月 26 日～11 月 3 日）

西館 4 階の常設展示「1.17 シアター」「震災直後のまち」「大震災ホール」を取り上げ、解説することにより、センターが実践してきた「災害伝承」について、震災 30 年の視点で改めて発信。会期前日の 4 月 25 日には内覧会を実施。会場：西館 2 階防災未来ギャラリー



2 震災伝承の 30 年（これまで）と未来（これから）『震災伝承』実践者からのメッセージ<第二期>（6 月 17 日～2 月 15 日）

阪神・淡路大震災からの 30 年の間に、「震災伝承」の観点で尽力されてきたオピニオンが伝える、実践してきた取組や今後行うべきことなどをまとめたパネルを展示。会場：西館 1 階ロビー



<企画展>

1 第20回ぼうさい甲子園 令和6年度受賞校活動紹介展（5月27日～6月22日）

令和6年度ぼうさい甲子園受賞校が作成した活動内容を取りまとめた成果を展示。
場：西館1階ロビー

2 夏休み防災未来学校 2025（7月19日～8月17日）

子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種プログラムを毎日開催。会場：西館1階ガイダンスルームほか



はじめて知る・学ぶ 1.17 阪神・淡路大震災



ゲリラ豪雨マスターになろう！



トカゲちゃんといっしょに“ペット防災”



サバイバル！手作りラジオに挑戦しよう！

3 地震・火災・感震ブレーカー ～予防しよう！通電火災（12月16日～6月7日）

これまでの地震災害において電気火災が多発していることから、通電火災を防止する感震ブレーカーについて、その種類や設置方法を解説したパネルや実物を展示。会場：西館2階防災未来ギャラリー



4 令和7年度防災力強化県民運動ポスターコンクール受賞作品展示（1月25日～2月13日）

ひょうご安全の日推進県民会議主催。兵庫県の小・中学生、高校生を対象に募集した防災をテーマとしたポスターの受賞作品を展示。会場：西館1階ロビー

5 3.11 東日本大震災 15 年。垣間見る、被災・復興地の現在進行形 ～ feat. 東北風土マラソン 2026（2月17日～3月15日）

3月11日に東日本大震災から15年を迎えるにあたり、東北各地にできた震災伝承施設の紹介のほか、東北の現状と魅力を世界に向けて発信することを目的として開催している「東北風土マラソン」を紹介。会場：西館1階ロビー



6 ～大阪・関西万博でユースが見つけた防災のミライ～ BOSAI 世界地図展 2026（3月17日～5月10日）

グローバルユース防災サミット実行委員会（TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ）主催。小学生から大学生までのメンバーが万博会場において各国の防災意識を調査し、計155か国・地域の650名の証言から得た知見・学びを共有するため「BOSAI 世界地図」としてまとめた成果を公開。会場：西館1階ロビー



<イベント>

1 災害伝承語り継ぎ探究サロン（全3回）（4月6日、7月26日、3月8日）

全国で災害伝承語り継ぎを実践している語り部や研究者をゲストに招き、活動内容の紹介とともに、参加者が自由に意見交換を行う場として開催。会場：西館1階ガイダンスルーム

第10回（4月6日）：阪神・淡路大震災30年の機に生まれた2つの絵本

第11回（7月26日）：トークイベント「特撮美術監督・三池敏夫氏が語る『災害×特撮』」

第12回（3月8日）：東日本大震災から15年。マラソンフェスイベントを通じて取り組む復興の今・これから

※ YouTube「人と防災未来センター企画イベント」にてアーカイブを公開しています。



2 ひょうごフィールドパビリオン スペシャル・ガイドツアー（4月13日・19日・26日・27日、5月16日・24日・25日・31日、6月8日・21日・22日・29日、7月5日・6日・12日・13日・23日・30日、8月6日・9日・13日、9月15日・23日、10月13日）

大阪・関西万博 ひょうごフィールドパビリオンプログラムとして、アテンダントによる館内見学ガイドツアーを実施。

各日1回を基本としているが、以下の日程については午前・午後2回開催。

4月13日・19日・27日、5月16日、7月30日、8月6日

以下については開催を予定していたが参加申込がなかったため中止。

4月26日午後、5月10日・11日、6月7日・28日

なお、7月23日・30日、8月6日・9日・13日については「夏休み防災未来学校」内プログラムとして開催。会場：西館・東館



3 未来を創る！建設のチカラ展（7月23日～8月3日）

兵庫県主催。災害現場でも活躍する建設技術を楽しく学べる体験型展示を実施。会場：西館1階ロビー



4 気象庁気象科学館とコラボ！「はれるんランド」で遊ぼう！（8月5日～8月11日）

防災や気象の知識を遊びながら学ぶ、気象庁気象科学館で人気のゲーム「はれるんランド」を西館ロビーに設置したほか、気象庁の仕事がわかるパネルを展示。会場：西館1階ロビー



5 六甲山の災害展 2025 (8 月 13 日～8 月 24 日)

兵庫県、国土交通省六甲砂防事務所、神戸市建設局防災部防災課主催。六甲山で起こり得る水害等について学ぶために、土石流実験装置等を用いた実演や六甲山で過去に起きた災害に関するパネルを展示。会場：西館1階ロビー



6 HAT 減災サマー・フェス 2025 (8 月 17 日)

例年開催している地域交流イベント。デイトタイムは、屋内にて地域で活動している団体や兵庫県立大学による体験プログラムを多数実施。イブニングタイムは、屋外ひろばで縁日ブースや音楽イベント「ひとぼうステージ」を開催。会場：屋外ひろば・なぎさ公園ほか



7 ALL HAT 2025 (9 月 20 日)

例年、地元住民の防災イベントとして開催しているが、2025 年は大阪・関西万博開催年であり阪神・淡路大震災から 30 年の年であることから、兵庫県が展開する「創造的復興ウィーク」の関連イベントとして開催。気象庁神戸地方気象台、防衛省自衛隊兵庫地方協力本部、兵庫県警察等によるブース出展、神戸市消防局灘消防署による消防デモ訓練、神戸市水道局による応急給水訓練等を実施。また脇の浜・なぎさの両まちづくり協議会主体のサテライト会場では、地域住民による炊き出し等を実施。会場：西館1階ロビー 他





JA 共済



気象庁神戸地方気象台



江崎グリコ



神戸市消防局

8 おはなしひろば（7月27日、12月20日）

紙芝居や絵本による子供向けの読み聞かせ会を実施。7月27日は夏休み防災未来学校プログラム、12月20日はクリスマスイベントとして開催。会場：西館1階ガイダンスルーム



9 企画展「地震・火災・感震ブレイカー ～予防しよう！通電火災」関連イベント 感震ブレイカー・デモンストレーション（1月17日、3月28日）

開催中の企画展「地震・火災・感震ブレイカー～予防しよう！通電火災」の関連イベントとして、デモ機器を使用したデモンストレーションを実施。会場：西館2階防災未来ギャラリー



10 イザ！美かえる大キャラバン 2026（1月25日）

例年、JICA 関西と当センターを会場として開催している防災イベント。各団体による、子供や家族連れ等を対象とした、防災・減災を学べるワークショップ等を実施。会場：西館1階ロビーほか



11 阪神・淡路大震災から31年 南海トラフ巨大地震へ地域の備えを進めるセミナー・ワークショップ（2月11日）

一般社団法人大学都市神戸産官学プラットフォーム主催。災害が頻発化する中、地域防災を進める上で、住民・大学・企業・行政等が共同して取り組む上での必要な備え・対策を検討するセミナーとワークショップを開催。会場：西館1階ガイダンスルーム

12 企画展「～大阪・関西万博でユースが見つけた防災のミライ～ BOSAI 世界地図展 2026」関連イベント ～大阪・関西万博でユースが見つけた防災のミライ～ BOSAI 世界地図 リアルミーティング in ひとぼう

大阪・関西万博での「防災世界地図」プロジェクトに参加したユースメンバーが一堂に会し、今回の活動と展示制作を通じて感じたことや、それぞれの気づきや想いを発表。会場：ガイダンスルーム



13 無料開館日特別プログラム 語り部ワークショップ（1月を除く毎月17日）

無料開館日である17日（祝日・振替休日の場合は翌18日）に、より多くの方に被災体験を聞いていただく機会とするため、個人来館者を対象とした語り部ワークショップを実施。会場：西館3階 震災を語り継ぐコーナー

＜出展・アウトリーチ＞

1 レジリエンスセッション 震災と未来のこうべ博（4月26日～4月27日）

神戸市の震災30年事業である「震災と未来のこうべ博」にブース出展し、防災絵本「ぼうさいバッグのちいさなポケット」をテーマとした防災グッズワークショップを実施するとともに、防災100年えほんプロジェクトの取組を紹介。会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）



2 COMIN'G KOBE 25（5月18日）

阪神・淡路大震災を若い世代へ伝える音楽イベント COMIN'G KOBE 会場にブース出展し、阪神・淡路大震災の被害状況等をまとめたパネルを展示したほか、出演アーティストと災害や防災について語る「ひとぼうステージ」を実施。会場：メリケンパーク



3 大阪・関西万博 ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル 2025（5月30日）

兵庫県主催「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル」に JICA 関西と共同でブース出展し、国内外・年齢問わずに誰でも楽しく参加できるプログラム「減災おみくじ」を実施しセンターを紹介。また、大屋根リンク下に設けられたポップアップステージで、センターの場所や取組等を紹介。会場：大阪・関西万博会場内ギャラリー WEST



4 震災対策技術展大阪（7月3日～7月4日）

自然災害対策や防災グッズ、BCP対策等をテーマとした展示会「震災対策技術展大阪」へブース出展し、センターの取組や防災100年えほんプロジェクト等を紹介。会場：マイドーム大阪



5 防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2025（9月6日～9月7日）

ブース出展では全国の災害伝承ミュージアムのパンフレット配布等を実施。

セッションでは“共に取り組みたいこと・できそうなこと”をテーマとして、災害伝承ミュージアム・ネットワークでの連携等について意見交換を実施。会場：朱鷺メッセ（新潟県）



6 神戸マラソン EXPO 2025（11月14日～11月15日）

神戸マラソンのランナー受付会場でもある EXPO 会場内「KOBE MARATHON OPEN MARKET 2025」へブース出展し、阪神・淡路大震災被災当時の写真やセンターの取組を紹介するパネルを展示したほか、防災グッズが当たるアンケートを実施。また、連携事業として、神戸マラソンランナーのセンターへの無料招待を実施。会場：神戸国際展示場 3 号館



7 脇の浜インフラゼロハウス（1月31日、2月7日）

HAT 神戸・脇の浜団地に UR 都市機構と MUJI HOUSE の連携で設置した「インフラゼロハウス」において、地元住民が楽しく参加できるプログラム「減災おみくじ」を実施。
会場：脇の浜団地のけやき広場



8 ひょうごミュージアムフェア（2月14日）

兵庫県博物館協会主催「ひょうごミュージアムフェア」にブース出展し、防災100年えほんプロジェクト発行の防災絵本4冊の紹介や、防災グッズをテーマとしたプログラムを実施。会場：兵庫県立歴史博物館



9 巡回展（1月～）

日本災害伝承ミュージアム・ネットワーク制作のポスター「日本災害伝承ミュージアムマップ2026」を全国のネットワーク所属団体に送付し、各施設の任意で展示。会場：東日本大震災津波伝承館（いわて TUNAMI メモリアル）、3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク）、津波高潮ステーション、熊本地震震災ミュージアム KIOKU ほか

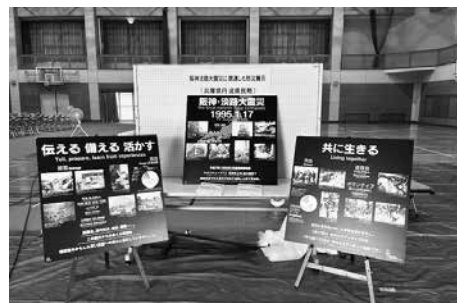
＜展示パネル貸出＞

1 阪神・淡路大震災パネル貸出展示（年間を通して）

外部展示用に作成した、阪神・淡路大震災の概要を伝える展示パネルを各組織・団体からの要請によりイベント会場、プロスポーツ試合会場等で展示。会場：広島テレビ社屋エキキターレ、風見鶏の館、アクリエ姫路、兵庫県立尼崎の森中央緑地等 22 カ所



震災と未来のこうべ博



丹波篠山市雲部地区総合防災訓練

＜誘客活動実績＞

小・中・高校生を中心に利用者の年齢、職業、地域等に応じて、きめ細かな広報・集客対策を進めた。

また、遠隔地やまだ来館していない方々の一層の来館を促すため、ホームページに展示見学の疑似体験ができる 3D & VR 映像を充実させて公開している。

1. 県内小・中学生

県内の子どもたちが、学校行事等で一度はセンターを訪れ、大震災について学ぶ機会を確保することを目指して、12 月に教職員対象とした特別下見会を実施するとともに、県教育委員会と連携して、県下の中学校 1 年生が県立芸術文化センターを訪問する「わくわくオーケストラ教室事業」の指導手引書や小・中学校に向けた情報誌へ、防災学習施設として紹介記事の掲載を行った。

「夏休み防災未来学校 2025」の広報では、神戸市の小学校へのデジタル掲示板掲載や、芦屋市、西宮市、明石市、姫路市、加古川市、尼崎市の小学校へのチラシ配布を行った。

2. 県外小・中・高校生

修学旅行や校外学習の動向を踏まえて、全国の高校や来館者の多い府県の小・中・高等学校へ観覧案内パンフレット（申込書付き）を送付するとともに、下見に訪れた学校等に対して、防災学習に最適なセンターの利用を呼びかけた。

3. 外国人

海外向けの施設紹介 WEB サイトや旅行ガイドブック、神戸空港での訪日外国人を対象とした無料配布観光冊子等への掲載の他、関西国際空港の外国人向けインフォメーションでのリーフレット配置等を随時実施した。

4. 個人・家族・地域団体等

館内での各種企画展・イベントの開催予定についてマスコミへタイムリーな情報提供を行ったほか、「震災対策技術展大阪」（大阪市）等へブース出展し、センターの取組等



についてパネル展示等による広報を展開した。また、大阪・関西万博会場にて、兵庫県主催「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル」へ出展することにより、より幅広い地域・年齢層の方にセンターの周知を行った。

多くの方々に大震災の経験と教訓や「減災活動の日」への理解を深めていただくため、従来から実施している毎月17日を入館料無料とし、また、神戸マラソン参加者への無料招待を実施することで当センターのPRを行うことができた。

4 節 運営ボランティアの活動等

人と防災未来センターでは、運営スタッフとして、職員やアテンダントのほか、多数の運営ボランティアが加わっている。

運営ボランティアには、外国語や手話による展示解説を行う「語学」、展示物の説明や簡単な実験などを行う「展示解説」、阪神・淡路大震災の震災体験を語る「語り部」の3種類があり、一日当たり18人程度が活動している。

1 活動内容

区 分	共通の活動	専門の活動
語 学 (英・中・韓)	館内展示に関する来館者への解説、展示体験補助(ワークショップ運営)・誘導整理、ツアーガイド	外国語(英語・中国語・韓国語)、手話による来館者対応(施設案内・展示解説等)
手 話		来館者対応(施設案内、展示解説等)
展示解説		
語 り 部		西館3階又は1階ガイダンスルームにおける来館者への「震災体験の語り」

2 登録状況

運営ボランティアは1年毎の登録制(更新可)としている。令和7年度については、新規登録者を含め158名が登録している。(単位:人)

区 分		登録者数	性 別		年 代 別						
			男	女	～29	～39	～49	～59	～69	～79	80～
語学・手話	英 語	21	13	8	0	0	1	1	2	9	8
	中 国 語	4	1	3	0	0	0	0	3	1	0
	韓 国 語	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	手 話	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	語 学 等 計	27	14	13	0	0	2	1	5	11	8
展 示 解 説		87	69	18	1	0	0	5	24	34	23
語 り 部		44	34	10	0	0	0	3	13	12	16
合 計		158	117	41	1	0	2	9	42	57	47

(令和8年3月31日時点)

3 運営ボランティアの研修

例年、運営ボランティアやセンタースタッフ等を対象に、防災などの専門知識の向上や自己研鑽の機会として、研修セミナーを開催している。

回	日 時	参加人数	内 容	講 師
1	R7.4.11(金) 13:30～17:00	5人	新規運営ボランティア研修 (本センターの概要、展示内容、見学等) スケジュールに合わせ3回に分けて開催	運営課職員等
	R7.4.12(土) 13:30～17:00	13人		
	R7.4.26(土) 13:30～17:00	1人		

回	日 時	参加 人数	内 容	講 師
2	R7.6.16 (月) 13:00～14:30	73 人	・講演会 「南海トラフ巨大地震と新設予定の防災庁」	河田恵昭センター長
3	R7.11.9 (日)	47 人	防災施設見学会 ・福良港津波防災ステーション(南あわじ市) ・北淡震災記念公園野島断層保存館(淡路市)	施設担当者
4	R7.12.1 (月) 10:00～12:00	28 人	消防訓練 ・本館設置の消防、防火設備説明会 ・AED 講習	施設担当者等

4 語り部による被災体験談

- (1) 語り部による講話(被災体験談)を実施しており、同館1階ガイダンスルームでの講話実施状況は次のとおりである。

西館1階ガイダンスルームでの講話実施状況

区分	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	回数	聴講人数	回数	聴講人数	回数	聴講人数
4月	42	2,151	37	2,095	40	2,122
5月	75	4,703	75	4,657	70	4,429
6月	74	3,711	80	3,899	89	5,692
7月	35	1,472	36	1,171	43	1,761
8月	24	893	15	406	24	978
9月	92	5,634	85	4,567	91	5,457
10月	123	7,457	100	5,507	102	6,001
11月	101	5,693	119	5,813	99	5,795
12月	79	4,834	75	4,568	76	4,627
1月	62	3,710	67	3,884	47	2,689
2月	60	3,206	63	3,330	44	2,511
3月	24	1,279	42	1,582	28	1,281
計	791	44,743	794	41,479	753	43,343

- (2) 毎月17日の入館無料日に、西館3階にて語り部ワークショップを実施しており、実施状況は次のとおりである。

西館3階語り部ワークショップ実施状況

令和7年度		令和6年度		令和5年度	
回数	聴講人数	回数	聴講人数	回数	聴講人数
137	792	115	704	142	615

- (3) 語り部による講話の映像を順次収録し、貴重な震災関連資料として保存・活用するとともに、将来的には公開につなげていく。

語り部講話映像収録状況

(人)

令和7年度	令和6年度	令和5年度
3	0	1

5 研究員による防災セミナー

小、中学生等を対象に、センター研究員による防災セミナーを実施している。

セミナーでは、災害の種類や要因、減災への取組について、研究員の最新の研究成果なども盛り込んだ情報をわかりやすく提供している。

なお、小、中学生等を対象としたセミナーの実施状況は次のとおりである。

西館1階ガイダンスルームでの防災セミナー実施状況

区分	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	回数	聴講人数	回数	聴講人数	回数	聴講人数
4月	0	0	1	17	1	17
5月	2	97	4	195	2	129
6月	2	114	2	79	2	147
7月	0	0	3	226	0	0
8月	0	0	0	0	1	30
9月	2	96	4	248	5	275
10月	4	47	1	31	4	214
11月	3	116	5	360	8	546
12月	4	216	4	252	2	98
1月	2	184	2	111	11	718
2月	4	285	3	151	2	154
3月	2	78	1	33	1	69
計	25	1,233	30	1,703	39	2,397

5 節 VIP 等の視察対応

人と防災未来センターでは、一般観覧者のほか、海外からは中央・地方政府の要人や国際協力機構（JICA）が招聘した途上国の研修員等の視察を、国内からは政府や地方自治体の幹部及び議会議員などの行政視察を積極的に受け入れている。これらの団体には、展示見学に加え、センターの設立趣旨や機能、あるいは阪神・淡路大震災の教訓について説明し、センターの取組の発信に努めている。

なお、令和7年度にセンターに視察・研修目的で来訪した団体は、144 団体、1,226 人であった。こうした視察対応は、新たな団体の来訪、研修への参加等、様々な波及効果を生み出している。

令和7年度 VIP 等の視察対応の実績

区 分	団体数	人数	主な団体等
海外の要人等	11	95	・ 韓国・釜山広域市（5/13） ・ オーストラリア総領事館（8/6） ・ 駐大韓民国総領事館（9/5） ・ 韓国・忠清北道清州市議員一行（10/16） ・ 韓国・慶尚南道道民局（11/29） ・ JICA 関西（1/21） ・ 韓国・慶尚南道行政グループ（1/25）
国関係	10	54	・ 経済産業省大臣官房（6/11） ・ 外務省国際協力局（6/19） ・ 国土交通省近畿地方整備局（7/16） ・ 内閣府防災担当（7/18、2/13） ・ 海上保安庁第五管区海上保安本部（8/8、9/12） ・ 陸上自衛隊中部方面総監（9/9）
地方自治体等	59	568	・ 関西広域連合観光課（5/2、7/10） ・ 愛知県名古屋市危機管理局（5/14） ・ 静岡県議会（5/23） ・ 長野県飯田市議会（7/4） ・ 神奈川県茅ヶ崎市議会（8/5） ・ 福島県議会総務委員会（8/19） ・ 大阪府高槻市議会（8/22） ・ 山梨県町村会（8/26） ・ 愛知県市長会（10/16） ・ 神奈川県相模原市危機管理統括部（10/23） ・ 兵庫県病院局（12/5、12/19） ・ 兵庫県警察本部災害対策課（12/10） ・ 石川県議会災害策特別委員会（12/23）
その他	64	509	・ 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科（5/1、1/11） ・ 国連地域開発センター（5/15） ・ 関西国際大学（6/12、8/1、1/10、2/10、3/1） ・ 創造的復興サミットエクスカージョン（9/20） ・ 福島国際研究教育機構（3/10）
合 計	144	1,226	

※上記のほか、取材等の目的で来館した報道機関の記者、旅行社等に対して、43 件の広報・宣伝活動を行った。

